＜様式2＞

京丹後市教育振興計画

施策評価・進捗管理調書（内部評価結果）

担当課	担当課長
学校教育課	川村　義輝
生涯学習課	安達　純
子ども未来課	蒲田　幸宏

重点目標	4	豊かな人間性・社会性を育みます
基本的方針	学校園、家庭、地域及び行政の協働により、子どもたちが周囲からの愛情や信頼、期待などに「包み込まれているという感覚」を育むとともに、人や社会との絆、思いやりを大切にする豊かな人間性・社会性を育みます。 また、不登校等の課題がある児童生徒一人ひとりに応じたきめ細かな指導を行います。	

1．施策の方向性　PLAN

1．人を思いやり、尊重する社会性の育成	①保幼小中一貫教育による学校園や校種を超えた交流授業や合同行事など、多様な集団での活動を充実し、子どもたちの自尊感情を高めるとともに、豊かな人間関係や社会性を育みます。 ②生命を大切にする心や他人を尊重する心などを育むとともに、新たに教科となった道徳科をはじめ、すべての教育活動において、就学前から中学校までの系統性・一貫性のある道徳教育や人権教育を推進します。 ③地域の人々との幅広い交流の機会を拡充することで、ルールやマナー、社会常識、社会性を育みます。 ④各学園（中学校区）において、学校園、家庭及び地域が子どもたちの生活実態や課題を共有し、規範意識や社会性を高める取組みを協働して進めます。 ⑤情報機器の適切な使用やSNSに代表される情報通信ネットワークのルール・モラル等について、児童生徒の実態に応じて具体的に指導するとともに、専門家や保護者、学校支援ボランティア等と連携し、系統的かつ一貫性のある指導体制を整備します。
2．生徒指導体制、教育相談体制の充実	①子どもたちが集団生活を通して課題を解決する意欲と実践力を身に付けることができるよう、一人ひとりの生活実態の把握や内面理解の充実を図ります。 ②学校園の状況に応じてスクールサポーターを配置するなど、子ども一人ひとりの課題やニーズに対応するきめ細かな支援体制を整備します。 ③京丹後市いじめ防止等基本方針に基づき、組織体制の整備を行うとともに、関係機関と連携し、いじめの防止、いじめの早期発見及びいじめへの対処のための対策を総合的かつ効果的に推進します。 ④不登校等の児童生徒の多様な実態と課題に対応し、学校復帰と社会的自立を支援するため、教育支援センター「麦わら」の相談・支援体制の充実及び機能強化を図ります。
3．家庭・地域の教育力の向上	①各学園（中学校区）の学校園、家庭及び地域が、育みたい子ども像や児童生徒の実態及び課題を共有し、緊密に連携して指導を行うしくみづくりを進めます。 ②家庭は自己肯定感や豊かな心、他者に対する思いやりや命を大切にする気持ちなどを養う最も重要な役割を担う場ととらえ、PTA等と連携しながら、乳幼児期から思春期（中学生）までの子どもの成長段階に応じた家庭教育支援を進めます。 ③子どもの豊かな人間性・社会性を育むとともに、孤立しがちな親や子育てに悩みを抱えている親への支援等のため、家庭子ども相談室による相談や関係機関の連携による支援を実施します。また、家庭教育支援チームの活動を進めるとともに、関係団体の活動を支援します。 ④子どもたちが身近な地域で体験や交流ができる活動の充実を図る。 ⑤子どもたちの放課後の居場所づくりのため、地域ボランティアの協力を得て様々な体験活動、地域住民との交流活動を行うとともに、地域における子どもたちの活動拠点を確保するための事業の拡充を進めます。 ⑥保護者の就労状況の多様化や家庭環境の変化に伴い、放課後における児童の健全育成を図るため実施している放課後児童健全育成事業の利用が増加しています。利用ニーズを的確に把握するとともに、サービス体制や施設環境の整備を推進し、待機児童ゼロを継続します。 また、青少年の健全育成と安全・安心な地域づくりのため、青少年健全育成会をはじめ、関係団体と連携した効果的な活動を進めます。
4．芸術文化を通じた豊かな感性、情緒の育成	①子どもが生涯にわたって自然や歴史、仲間、多様な人々と関わり合う体験活動や、学校支援ボランティア等の専門的な知見や技能を活用するなど、我が国や京丹後市の伝統文化や自然環境、文化・芸術等に親しみ、学ぶ機会を充実します。 ②学校園や家庭での読書活動により子どもの豊かな情緒を育むため、関係機関・団体等との連携・協力関係をさらに強化し、学校園、家庭及び地域が一体となった取り組みを進めるとともに、学校図書館の機能強化を図ります。

【参考】施策に関連するその他の計画

計画名称	計画概要	策定年月	計画期間	備考
第2次京丹後市総合計画	市の目指す基本理念、目標、将来像などを示した「基本構想」と、その構想を実現するための各種施策を総合的、計画的に体系化した「基本計画」	平成27年3月	平成27年度～令和6年度	
京丹後市いじめ防止等基本方針	国、府、学校、地域社会、家庭及びその他の関係者が連携のもと、社会総がかりでいじめの問題の克服に向けて取り組むとともに、いじめ防止対策推進法第12条の規定に基づき、いじめの防止、いじめの早期発見及びいじめへの対処のための対策を総合的かつ効果的に推進するために策定	平成26年6月	計画期間の定めなし	策定から3年経過を目途に見直し（平成30年度見直し）

計画名称	計画概要	策定年月	計画期間	備考
京丹後市学校教育改革構想	中学校卒業時に期待される学力をすべての生徒が確実に身に付けることができるようにしていくため、保育所・幼稚園、小学校、中学校の10年間を見据え、より系統的で一貫性のある教育を実践するための構想を策定	平成24年11月	計画期間の定めなし	
京丹後市文化芸術振興計画	市民が主体となって文化芸術活動に取り組み、楽しみを感じられる文化芸術のまちづくりを総合的かつ計画的に推進するために策定	令和5年3月	令和5年度～令和14年度	

2. 主な取組と構成事務事業一覧

PLAN　DO　※各事業の成果・課題については、別紙決算附属資料参照　CHECK　ACT

1. 人を思いやり、尊重する社会性の育成

主な取り組み

① 保幼小中一貫教育による学校園や校種を超えた交流授業や合同行事など、多様な集団での活動を充実し、子どもたちの自尊感情を高めるとともに、豊かな人間関係や社会性を育みます。

② 生命を大切にする心や他人を尊重する心などを育むとともに、新たに教科となった道徳科をはじめ、すべての教育活動において、就学前から中学校までの系統性・一貫性のある道徳教育や人権教育を推進します。

③ 地域の人々との幅広い交流の機会を拡充することで、ルールやマナー、社会常識、社会性を育みます。

④ 各学園（中学校区）において、学校園、家庭及び地域が子どもたちの生活実態や課題を共有し、規範意識や社会性を高める取組みを協働して進めます。

⑤ 情報機器の適切な使用やSNSに代表される情報通信ネットワークのルール・モラル等について、児童生徒の実態に応じて具体的に指導するとともに、専門家や保護者、学校支援ボランティア等と連携し、系統的かつ一貫性のある指導体制を整備します。

↓	事務事業名称・事業内容（実績）	担当課	決算額（単位：千円） R3決算額	R4決算額	R5予算額	事務の改善 評価を踏まえた今後の方向性
1	小学校教育推進活動実践事業 府の研究指定校を受けて教育活動に取り組むとともに、体験活動や総合的な学習活動の充実、基礎学力の向上や豊かな人間性の育成を図る。	学校教育課	1,232	－	－	統合（整理）
2	小学校丹後学等教育活動実践事業《再掲》 授業改善や教員の指導力向上を図るため、府の研究指定校を受けて教育実践に取り組むとともに、「丹後学」の充実を図る。 また、教育課題の解決に向けた研究事業に取り組むほか、修学旅行における引率教員の施設入場料等に係る経費を支援する。	学校教育課	－	－	－	現状維持
3	中学校教育推進活動実践事業 府の研究指定校を受けて教育活動に取り組むとともに、体験活動や総合的な学習活動の充実、基礎学力の向上や豊かな人間性の育成を図る。	学校教育課	4,077	－	－	統合（整理）
4	中学校丹後学等教育活動実践事業《再掲》 教員の指導力向上や生徒の自己肯定感を高めるため、府の研究指定を受け教育実践に取り組むとともに、「丹後学」の充実を図る。 また、教育課題の解決に向けた研究事業に取り組むほか、修学旅行における引率教員の施設入場料等に係る経費を支援する。	学校教育課	－	－	－	現状維持

2. 生徒指導体制、教育相談体制の充実

主な取り組み

① 子どもたちが集団生活を通して課題を解決する意欲と実践力を身に付けることができるよう、一人ひとりの生活実態の把握や、内面理解の充実を図ります。

② 学校園の状況に応じてスクールサポーターを配置するなど、子ども一人ひとりの課題やニーズに対応するきめ細かな支援体制を整備します。

③ 京丹後市いじめ防止等基本方針に基づき、組織体制の整備を行うとともに、関係機関と連携し、いじめの防止、いじめの早期発見及びいじめへの対処のための対策を総合的かつ効果的に推進します。

④ 不登校等の児童生徒の多様な実態と課題に対応し、学校復帰と社会的自立を支援するため、教育支援センター「麦わら」の相談・支援体制の充実及び機能強化を図ります。

↓	事務事業名称・事業内容（実績）	担当課	決算額（単位：千円） R3決算額	R4決算額	R5予算額	事務の改善 評価を踏まえた今後の方向性
5	いじめ防止啓発推進事業 「京丹後市いじめ防止等基本方針」に基づくいじめ防止等の啓発活動を実施し、市と市民が一体となっていじめの防止等のための対策を総合的かつ効果的に推進する。	学校教育課	1,523	1,739	1,746	現状維持
6	いじめ防止対策等運営事業 いじめ防止対策等専門委員会及びいじめ問題対策連絡会議を設置し、関係機関が一体となって、いじめの防止等のための対策を総合的かつ効果的に推進する。	学校教育課	249	252	403	現状維持
7	指導主事設置事業 学校教育及び就学前教育の充実を図るため、指導主事を配置し、専門的事項に関する指導等を行う。	学校教育課	12,626	12,642	12,868	現状維持
8	就学支援・教育相談事業 児童生徒の不登校など学校不適応の状況を、発達検査などにより把握・分析し、相談・支援体制を整え、児童生徒が安定した学校生活を送ることができるように支援する。	学校教育課	309	783	865	現状維持
9	教育支援ｾﾝﾀｰ管理運営事業 不登校やその傾向にある児童生徒について、個々の状況に応じ、広く将来の社会的自立が目指せるようになるための様々な支援を実践する。	学校教育課	10,209	10,564	15,017	現状維持
10	小学校ｽｸｰﾙｻﾎﾟｰﾀｰ等設置事業《再掲》 スクールサポーターを配置し、児童一人ひとりの課題・特性を的確に把握し、よりきめ細やかな指導に努めるとともに、円滑な授業を実施する。	学校教育課	－	－	－	現状維持

2. 生徒指導体制、教育相談体制の充実		決算額（単位：千円）			事務の改善
主な取り組み ↓ 事務事業名称・事業内容（実績）	担当課	R3決算額	R4決算額	R5予算額	評価を踏まえた今後の方向性
11 中学校ｽｸｰﾙｻﾎﾟｰﾀｰ等設置事業《再掲》 スクールサポーターを配置し、生徒一人ひとりの課題・特性を的確に把握し、よりきめ細やかな指導に努めるとともに、円滑な授業を実施する。	学校教育課	－	－	－	現状維持

3. 家庭・地域の教育力の向上		決算額（単位：千円）			事務の改善
主な取り組み ↓ 事務事業名称・事業内容（実績）	担当課	R3決算額	R4決算額	R5予算額	評価を踏まえた今後の方向性

① 各学園（中学校区）の学校園、家庭及び地域が、育みたい子ども像や児童生徒の実態及び課題を共有し、緊密に連携して指導を行うしくみづくりを進めます。

② 家庭は自己肯定感や豊かな心、他者に対する思いやりや命を大切にする気持ちなどを養う最も重要な役割を担う場ととらえ、PTA等と連携しながら、乳幼児期から思春期（中学生）までの子どもの成長段階に応じた家庭教育支援を進めます。

③ 子どもの豊かな人間性・社会性を育むとともに、孤立しがちな親や子育てに悩みを抱えている親への支援等のため、家庭子ども相談室による相談や関係機関の連携による支援を実施します。また、家庭教育支援チームの活動を進めるとともに、関係団体の活動を支援します。

④ 子どもたちが身近な地域で体験や交流ができる活動の充実を図る。

⑤ 子どもたちの放課後の居場所づくりのため、地域ボランティアの協力を得て様々な体験活動、地域住民との交流活動を行うとともに、地域における子どもたちの活動拠点を確保するための事業の拡充を進めます。

⑥ 保護者の就労状況の多様化や家庭環境の変化に伴い、放課後における児童の健全育成を図るため実施している放課後児童健全育成事業の利用が増加しています。利用ニーズを的確に把握するとともに、サービス体制や施設環境の整備を推進し、待機児童ゼロを継続します。
また、青少年の健全育成と安全・安心な地域づくりのため、青少年健全育成会をはじめ、関係団体と連携した効果的な活動を進めます。

12 家庭こども相談室事業 家庭児童の適正な養育及び福祉の向上を図る。	子ども未来課	210	366	3,702	拡大
13 家庭教育事業 発達段階に応じた学習及び交流機会を提供するとともに、PTA活動を支援することによって、全ての教育の出発点であり、子どもの成長の基礎となる家庭教育を推進する。	生涯学習課	1,026	1,584	1,721	現状維持
14 放課後児童健全育成事業 保護者の就労や疾病その他の理由により、学校の放課後、長期休業期及び土・日曜日等に適切な保育が受けられないと認められる家庭の小学校の児童に対し、適切な遊びや生活の場を与えることにより、児童の健全な育成と子育て支援の推進を図る。	子ども未来課	219,211	245,621	276,229	現状維持
15 放課後子ども教室事業 放課後に小学校の余裕教室を子どもたちの安全・安心な居場所として活用し、地域住民の参画により、子どもたちが心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進する。	子ども未来課	433	658	865	現状維持

4. 芸術文化を通じた豊かな感性、情緒の育成		決算額（単位：千円）			事務の改善
主な取り組み ↓ 事務事業名称・事業内容（実績）	担当課	R3決算額	R4決算額	R5予算額	評価を踏まえた今後の方向性

① 子どもが生涯にわたって自然や歴史、仲間、多様な人々と関わり合う体験活動や、学校支援ボランティア等の専門的な知見や技能を活用するなど、我が国や京丹後市の伝統文化や自然環境、文化・芸術等に親しみ、学ぶ機会を充実します。

② 学校園や家庭での読書活動により子どもの豊かな情緒を育むため、関係機関・団体等との連携・協力関係をさらに強化し、学校園、家庭及び地域が一体となった取り組みを進めるとともに、学校図書館の機能強化を図ります。

上記の「主な取り組み」への位置付けが困難な事業		決算額（単位：千円）			事務の改善
事務事業名称・事業内容（実績）	担当課	R3決算額	R4決算額	R5予算額	評価を踏まえた今後の方向性
16 子ども未来まちづくり審議会事業《再掲》 すべての子どもが健康で幸せに暮らせるまちづくりの推進及び子ども・子育て支援事業計画の進捗管理、特定教育・保育施設の利用定員の設定等について審議する。	子ども未来課	－	－	－	現状維持
	計	251,105	274,209	313,416	

3. 教育振興計画で掲げている主な目標指標

基本的方針	学校園、家庭、地域及び行政の協働により、子どもたちが周囲からの愛情や信頼、期待などに「包み込まれているという感覚」を育むとともに、人や社会との絆、思いやりを大切にする豊かな人間性・社会性を育みます。 また、不登校等の課題がある児童生徒一人ひとりに応じたきめ細かな指導を行います。

主な目標指標	目標指標	単位	計画作成時	年度	実績値（現状）	年度	目標値	年度
	不登校児童の出現率＜小学校＞	—	5人/0.16%	H25	15人/0.73%	R4	減少させる	R6
	不登校生徒の出現率＜中学校＞	—	47人/2.49%	H25	63人/4.90%	R4	減少させる	R6
	いじめの認知件数/認知率＜小学校＞	—	386件/12.7%	H25	649件 27.8%	R4	減少させる	R6

	目標指標	単位	計画作成時	年度	実績値（現状）	年度	目標値	年度
主な目標指標	いじめの認知件数/認知率＜中学校＞	—	189件/10.2%	H25	66件 5.1%	R4	減少させる	R6
	認知されたいじめの年度内解消率＜小学校＞	—	357件/92.5%	H25	96.9%	R4	100%	R6
	認知されたいじめの年度内解消率＜中学校＞	—	181件/95.8%	H25	95.5%	R4	100%	R6
	いじめはいけないことだという意識がある児童の割合＜小学生＞	%	97.0 「全国学力・学習状況調査」児童生徒質問用紙小6	H25	97.2	R4	増加させる	R6
	いじめはいけないことだという意識がある生徒の割合＜中学校＞	%	90.9 「全国学力・学習状況調査」児童生徒質問用紙中3	H25	96.6	R4	増加させる	R6
	学校のきまりや規則を守る意識がある児童の割合＜小学生＞	%	93.8 「全国学力・学習状況調査」児童生徒質問用紙小6	H25	実施なし	R4	増加させる	R6
	学校のきまりや規則を守る意識がある生徒の割合＜中学校＞	%	90.8 「全国学力・学習状況調査」児童生徒質問用紙中3	H25	実施なし	R4	増加させる	R6
	人の気持ちが分かる人間になりたいと思う児童の割合＜小学生＞	%	94.4 「全国学力・学習状況調査」児童生徒質問用紙小6	H25	実施なし	R4	増加させる	R6
	人の気持ちが分かる人間になりたいと思う生徒の割合＜中学生＞	%	95.2 「全国学力・学習状況調査」児童生徒質問用紙中3	H25	実施なし	R4	増加させる	R6
	人の役に立つ人間になりたいと思う児童の割合＜小学生＞	%	94.0 「全国学力・学習状況調査」児童生徒質問用紙小6	H25	96.0	R4	増加させる	R6
	人の役に立つ人間になりたいと思う生徒の割合＜中学生＞	%	93.2 「全国学力・学習状況調査」児童生徒質問用紙中3	H25	97.1	R4	増加させる	R6
	自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合＜小学生＞	%	-		79.1	R4	増加させる	R6
	自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合＜中学生＞	%	-		76.9	R4	増加させる	R6
	住んでいる地域の行事に参加している児童生徒の割合＜小学生＞	%	-		76.0	R4	維持する	R6

	目標指標	単位	計画作成時	年度	実績値（現状）	年度	目標値	年度
主な目標指標	住んでいる地域の行事に参加している児童生徒の割合＜中学生＞	%	－		75.8	R4	維持する	R6
	放課後児童クラブ待機児童数ゼロの継続	人	－		0	R4	0	R6

4. 施策の進捗状況の評価と今後の課題［基本的方針の達成に向け、施策がどの程度進捗しているか］

CHECK　ACT

進捗状況区分	評価	令和4年度成果と今後の課題
◎　予定以上に進んでいる ○　予定どおり進んでいる ▲　少し遅れている ×　大幅に遅れている	○	**《不登校児童生徒の出現率》** 不登校児童生徒の出現率は、全国的に増加している。本市においても令和3年度急増した小学校の不登校児童のうち、6年生が中学校へ入学したということもあり、令和4年度は0.25%減少となった。逆に中学校は、令和3年度まで減少傾向であったが、急増した小学校の不登校児童が入学したということもあり、令和4年度は1.43%の増加となった。別室指導等の物的な居場所づくりやSC、SSWをはじめとした教職員とのつながり、すなわち心理的な居場所づくりの成果であるとも考えられる。また、保幼小中一貫教育の推進による各校園での未然防止を重点とした取組みや確実な情報の共有等によって、不登校解消に一定の成果は上がっている。しかし、解消より新規の出現が多いことから不登校の出現率が増加傾向にある。今後も未然防止の取組み推進が更に必要である。 **《いじめの認知件数/認知率》** 令和4年度は、いじめの認知件数・認知率とも小中学校で令和3年度と比較して少し増加し、2年連続の増加となった。令和2年度は、コロナ禍の中で通常の学校生活とは異なる環境下での調査であったことが原因として予測できる。引き続き、些細な兆候も見逃さない組織的な対応を行うとともに、認知件数・認知率のみにとらわれず、より丁寧な指導を継続していく必要がある。 **《認知されたいじめの年度内解消率》** 令和4年度いじめ調査の認知事象に基づく追跡調査結果において、解消率は小学校が96.9%、中学校が95.5%と非常に高い値となった。未解消事象については、今後も、各校のいじめ防止基本方針に基づき、実態把握や情報共有、組織的な対応を徹底し丁寧な指導を行うとともに、関係機関と連携した体制強化を図っていく。 **《いじめはいけないことだという意識がある児童生徒の割合》** いじめはいけないことだという意識がある児童生徒の割合は、年間3回のいじめ調査や追跡調査、児童生徒への丁寧な指導により、小学校で少し減少しているが、中学校で増加した。小中学校ともに高い水準を維持しているが、今後も児童生徒の豊かな心を育成するため、道徳科をはじめ、学校の教育活動全体を通じた取組みの充実を図る必要がある。 **《学校のきまりや規則を守る意識がある児童生徒の割合》** 実施なし。 **《人の気持ちが分かる人間になりたいと思う児童生徒の割合》** 実施なし。 **《人の役に立つ人間になりたいと思う児童生徒の割合》** 人の役に立つ人間になりたいと思う児童生徒の割合は、小中学校ともに増加した。近年、高い水準で推移している。教育活動全体を通した丁寧な指導により、社会貢献等への意識が確実に身に付いてきている。今後更に高めていくため、ボランティア活動など体験学習等の充実を図る必要がある。 **《自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合》** 自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合は、小中学校ともに増加している。日々の関わりの中で、児童生徒のよさを見つけ、ほめていることが児童生徒に伝わるようにほめるなど、意図的な働きかけにより、自尊感情や自己肯定感の基盤を育みたい。改定された生徒指導提要の趣旨にそった発達指示的な生徒指導を生かした授業づくりと学級経営、教育活動をさらに推進していく必要がある。 **《住んでいる地域の行事に参加している児童生徒の割合》** 住んでいる地域の行事に参加している児童生徒の割合は、小中学校とも減少した。さらに、近年、減少の傾向がある。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、地域における行事が中止となっていることが要因だと考えられるが、「丹後学」を通して、地域への理解と愛着を深めていく必要がある。 **《放課後児童クラブ待機児童数ゼロの継続》** 社会環境の変化に伴い放課後、家庭で適切な保育が受けられない家庭が増加していることもあり利用者が増加傾向にある。既存の施設や学校の空き教室を活用しているため、十分な保育室の確保ができないところもあるが、支援員の確保と併せ、受け入れ態勢の整備に努めていきたい。

５．今後の施策展開の考え方（令和5年～令和6年度での主な取組）　ＡＣＴ

区分	No.	具 体 的 内 容
施策展開の考え方	1	子どもたちの自尊感情を高め、豊かな人間性・社会性を育むため、保幼小中一貫教育による交流学習や児童会・生徒会活動などの集団活動を充実させるとともに、道徳科をはじめキャリア教育等学校の教育活動全体を通じた系統的で一貫性のある指導の更なる充実を図る。
	2	いじめや不登校など、児童生徒の多様な課題に対応するため、臨床心理士による教育相談体制を拡充するとともに、教育支援センターの相談支援機能を更に高めるなど、個の課題やニーズに応じたきめ細かな相談支援体制の整備・強化を図る。
	3	地域の子ども教室では、体験活動だけでなく、教室間での情報交流についても支援しながら教室活動の維持、拡充に努める。青少年健全育成会では、各地域ごとに子どもの体験活動を実施するほか、あいさつ運動や夏休みパトロールなどで地域の子どもの見守り活動を継続する。また平成28年度からスタートした「放課後子ども教室」事業は、安定的運営を目指す。
	4	子どもたちの芸術や自然を愛する心豊かな感性を育むため、教育活動等における文化体験や芸術鑑賞など、国や府の様々な事業や学校支援ボランティア等を活用し、伝統文化や芸術等に親しむ機会を充実させるとともに、学校図書の充足率向上を図る。

予算科目		本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
款	10 教育費	1,739千円	1,774千円	35千円	98.0 %		
項	01 教育総務費				(参考)当初予算額	課	学校教育課
目	02 事務局費				1,774千円		
事業	16 いじめ防止啓発推進事業						

基本計画	26 未来を拓く学校教育の充実
目的	「京丹後市いじめ防止等基本方針」に基づくいじめ防止等の啓発活動を実施し、市と市民が一体となっていじめの防止等のための対策を総合的かつ効果的に推進する。
主な財源	国補　新型ｺﾛﾅｳｲﾙｽ感染症対応地方創生臨時交付金　1,500千円

主要な事務・事業の概要

○いじめ防止講演会（講師謝金）　64千円

開催日：令和4年11月25日（金）

対　象：市民、教職員、PTA　参加者：36人

講　師：龍谷大学文学部臨床心理学科　　小正　浩徳　氏

会　場：アグリセンター大宮

○いじめ防止啓発　58千円

・いじめ防止啓発に係る懸垂幕の更新

・京丹後市こどもSNS相談やフリーダイヤルが掲載されているポケットティッシュを配布

実施日：令和4年11月16日（木）

場　所：ショッピングセンターマイン

○いじめ相談専用電話（通信運搬費）　33千円

フリーダイヤル利用料、いじめ相談専用携帯電話利用料

相談受付：365日24時間対応

対応者：教育委員会事務局指導主事、臨床心理士

※いじめ相談件数：0件

○京丹後市こどもSNS（LINE）相談窓口　1,584千円

・システム保守委託料　660千円

・システム使用料　924千円

開設時間：平日16時～21時

相談対象：市内に居住する小中学生

対応者：教育委員会事務局指導主事、臨床心理士

【相談件数等】

	R3	R4
相談件数	20	29
いじめに係る相談	2	0
LINE友達登録数	60	89

※令和3年8月開設・開設期間：令和4年4月～令和5年3月

成果・課題

○いじめ防止講演会及び街頭啓発キャンペーンを通じて、いじめの問題等について周知できた。
○SNS相談窓口を通年設置することで、いじめ以外の幅広い内容についての相談を受けることができた。
○SNS相談窓口の周知など、引き続き、相談しやすい環境づくりに努める必要がある。

予算科目		本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
款	10 教育費	252千円	392千円	140千円	64.2 %		
項	01 教育総務費				(参考)当初予算額	課	学校教育課
目	02 事務局費				392千円		
事業	17 いじめ防止対策等運営事業						

基本計画	26 未来を拓く学校教育の充実
目的	いじめ防止対策等専門委員会及びいじめ問題対策連絡会議を設置し、関係機関が一体となって、いじめの防止等のための対策を総合的かつ効果的に推進する。
主な財源	

主要な事務・事業の概要

○いじめ防止対策等専門委員会経費（委員数：5人）　235千円

いじめの防止等のための対策に関する事項や重大ないじめ事象が発生した場合に調査を行うため、弁護士、医師、臨床心理士、学識経験者からなる「いじめ防止対策等専門委員会」を設置し、会議を開催するなど、それぞれの専門的な立場からいじめ事象に対する助言を受けた。

開催日：第1回　令和4年11月12日（土）

第2回　令和5年3月11日（土）

会　場：京丹後市役所大宮庁舎

・報酬　126千円

・旅費（普通旅費・費用弁償）　100千円

・消耗品費　9千円

○いじめ問題対策連絡会議経費（委員数：21人）　17千円

保育所、こども園及び小中学校におけるいじめの防止対策や早期発見、いじめへの対処等に関する協議を行うため、「いじめ問題対策連絡会議」を設置し、教育、福祉、医療、保健、警察及び司法等の関係機関との連携を図った。

開催日：令和4年5月23日（月）

会　場：京丹後市役所峰山庁舎

・報償費（委員謝金）　16千円

・旅費（費用弁償）　1千円

※支払い対象人数：4人

成果・課題

○専門的な立場から指導・助言を受けることにより、学校に対していじめ防止等のための取組やいじめ事象の解決に向けた支援を行うことができた。
○いじめは、どの子どもにも、どの学校でも起こり得ることを踏まえ、いじめの未然防止及び早期発見に向けた取組を推進する必要がある。
○いじめの解決に向けた組織連携や見立ての在り方について、事例研修を行う中で各小中学校の対応力をさらに高める必要がある。

予算科目			本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率		
款	10 教育費		12,642千円	12,751千円	109千円	99.1 %	部	教育委員会事務局
項	01 教育総務費					(参考)当初予算額 12,712千円	課	学校教育課
目	02 事務局費							
事業	03 指導主事設置事業							
基本計画	26 未来を拓く学校教育の充実							

目的

学校教育及び就学前教育の充実を図るため、指導主事を配置し、専門的事項に関する指導等を行う。

主な財源

主要な事務・事業の概要

4人の地域担当の指導主事を各地域公民館に配置し、学校経営や教育内容について、その専門性と見識や経験を活かした指導等を行い、学校現場における課題解消に向けて対応した。

○会計年度任用職員（指導主事）任用経費（4人）	12,418千円
・報酬	8,655千円
・期末手当	1,687千円
・共済費（社会保険料、雇用保険料）	1,679千円
・費用弁償	397千円
○市内業務移動に係る費用弁償	216千円
○消耗品費（ファイル等事務用品）	8千円

【指導主事配置状況】

配置先	配置人数	所管町域
峰山地域公民館	1人	峰山町
大宮地域公民館・久美浜地域公民館	1人	大宮町、久美浜町
網野地域公民館	1人	網野町
丹後地域公民館・弥栄地域公民館	1人	丹後町、弥栄町

成果・課題

学校経営、教育内容に対する専門知識や豊かな経験を基にした指導等を行うことにより、不登校を含めた生徒指導上の諸問題への対応など、複雑多様化する教育現場の諸課題の克服に資することができた。

予算科目			本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率		
款	10 教育費		783千円	801千円	18千円	97.7 %	部	教育委員会事務局
項	01 教育総務費					(参考)当初予算額 801千円	課	学校教育課
目	02 事務局費							
事業	08 就学支援･教育相談事業							
基本計画	26 未来を拓く学校教育の充実							

目的

児童生徒の不登校など学校不適応の状況を、発達検査などにより把握・分析し、相談・支援体制を整え、児童生徒が安定した学校生活を送ることができるように支援する。

主な財源

主要な事務・事業の概要

【教育相談事業及び研修の実施】

各小中学校において臨床心理士による児童生徒や保護者との教育相談を実施し、当該児童生徒の通う学校の教職員へのアドバイスを行った。また、児童生徒の不登校などの学校不適応の未然防止や解消に向けての対応の在り方について、各小中学校の教育相談担当者や心の教室相談員などを対象に研修を実施した。

・相談会場	大宮庁舎及び各小中学校
・実施回数	毎月2回（大宮庁舎）及び適宜（各小中学校） 合計169回実施
・相談件数	延べ199件
・教育相談担当者研修	年2回
・事例研修	教育支援部会などにて適宜実施（各小中学校）

○教育支援に係る発達検査実施経費

・消耗品費	202千円
WISC-Ⅳ知能検査記録用紙、日本版KABC-Ⅱ記録用紙ほか	202千円
・備品購入費	581千円
新版K式発達検査2020補充追加セット（3台）	92千円
WISC-Ⅴ検査コンプリートセット（3台）	489千円

成果・課題

○臨床心理士による発達検査の実施、教育相談、教職員研修を実施することにより、適切な支援へとつながり、児童生徒の学校適応が推進された。
○小学校の不登校出現率が減少する一方、中学校での不登校出現率が増加したため、実態の分析を進めるとともに、適応推進に向けた必要な支援を届けていく。
○コロナ感染症が一定落ち着き、子どもたちの交流が活発になる中、トラブルが増えることを想定し、教育プログラムの実施や、相談窓口の周知を徹底するなどの対応を確実に行う必要がある。

予算科目		本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率		
款	10 教育費	10,564千円	11,022千円	458千円	95.8 %	部	教育委員会事務局
項	01 教育総務費				(参考)当初予算額 11,549千円	課	学校教育課
目	02 事務局費						
事業	09 教育支援ｾﾝﾀｰ管理運営事業						

基本計画	26 未来を拓く学校教育の充実
目的	不登校やその傾向にある児童生徒について、個々の状況に応じ、広く将来の社会的自立が目指せるようになるための様々な支援を実践する。

主な財源

府補	不登校児童生徒に対する支援推進事業費補助金（1/3）	484千円
繰入金	ふるさと応援基金繰入金	8,000千円

主要な事務・事業の概要

【教育支援センター運営経費】

不登校やその傾向にある児童生徒について、個々の状況をふまえ、多様な学びの機会をとおして、社会的自立の基盤となる自己肯定感や自己有用感が育める居場所として教育支援センター「麦わら」を設置。

- 配置人数　5人 教育支援センター指導員（会計年度任用職員）
- 配置体制　3人 （各指導員　週3日　1日7時間）
- 通所児童生徒数　13人　（小学生2人、中学生11人）
- 相談延べ件数　871件
- 来所延べ人数　1,318人
- 訪問延べ回数　64回

年度	H30	R元	R2	R3	R4
通所利用登録者	10人	17人	21人	15人	13人

教育支援センター（峰山町杉谷）の開設は、平成25年1月31日

○会計年度任用職員（指導員）任用経費（5人）	10,045千円
・報酬	7,294千円
・期末手当	1,129千円
・共済費（社会保険料、労災保険料、雇用保険料）	1,346千円
・費用弁償	276千円
○旅費（費用弁償　ほか）	10千円
○需用費（消耗品費　ほか）	185千円
○役務費（通信運搬費　ほか）	156千円
○使用料及び賃借料（コピー機借り上げ料）	163千円
○公課費	5千円

成果・課題

○教員経験の豊富な指導員による児童生徒等への学習及び生活の支援や、スクールカウンセラー、まなび・生活アドバイザーのカウンセリングなどにより、個々のケースに応じた支援を行い、学校復帰や進路実現等の社会的自立を図ることができた。
○市内の不登校児童・生徒が増加していることから、府配置のスクールカウンセラー、まなび・生活アドバイザー等とも連携し、支援センターの中核機能を果たす上で個々の不登校の状況を分析・共有するとともに、訪問型の支援を確実かつ的確に行う必要がある。

予算科目		本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率		
款	03 民生費	366千円	498千円	132千円	73.4 %	部	教育委員会事務局
項	02 児童福祉費				(参考)当初予算額 498千円	課	子ども未来課
目	01 児童福祉総務費						
事業	02 家庭こども相談室事業						

基本計画	25 子育て支援の総合的な推進
目的	家庭児童の適正な養育及び福祉の向上を図る。

主な財源

国補	子ども・子育て支援交付金（1/3）	127千円
府補	子ども・子育て支援交付金（1/3）	127千円

主要な事務・事業の概要

要保護児童対策地域協議会構成機関等と連携の下、児童虐待の未然防止、早期発見と適切な対応を行うとともに、支援の必要な児童や家庭（育児不安・養育力危惧・不登校等）について相談援助活動・家庭訪問・同行支援等を行った。
また、家庭子ども相談室（子ども未来課）と子育て世代包括支援センター「はぐはぐ」（健康推進課）の体制を強化しつつ両課の連携を図り、妊娠期から子育て期にわたる相談や支援の一体性・連続性を確保することを目的として、子ども未来課に「子ども家庭総合支援拠点」を設置した。

○研修旅費 調整担当者研修会等旅費	104千円
○事務経費 啓発物品・事務用品等	24千円
○役務費 児童相談緊急対応用携帯電話通話料（3台）	110千円
○使用料 有料道路通行料	19千円
○備品購入費 児童相談緊急対応用スマートフォン購入（3台）	99千円
○負担金 京都府家庭相談員連絡協議会負担金	10千円

【京丹後市児童相談等取扱件数】

種別	詳細	件数	種別	詳細	件数
養護	児童虐待	321	育成	性格行動	0
	その他	111		不登校	6
障害	発達障害	0		適性・育児等	5
その他	その他	8	計		451

【要保護児童対策地域協議会運営状況】

- 代表者・実務者会議　2回
- ケース進行管理会議　6回
- ケース検討会議　175回
- 講演会　1回（令和4年11月26日開催）　参加者151人

演題：「教育・保育現場からみる児童虐待と保護者・児童との向き合い方」
講師：佛教大学　副学長　原　清治　氏

成果・課題

○調整担当者研修等を受講し、専門的知識を向上させることができた。
○面談・家庭訪問・電話相談の実施、ケース検討会議の開催、要保護児童対策地域協議会の取組等により、さまざまな課題のある家庭への対応や支援を行った。
○子ども家庭総合支援拠点を設置し、母子保健と児童福祉のより一層の情報共有と連携、体制の強化を図ることができた。
○相談件数が増加傾向にある中、適切で迅速な支援につなげるため、職員の資質向上と関係機関との連携をさらに深める必要がある。

予算科目			本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率		
款	10 教育費		1,584千円	1,612千円	28千円	98.2 %	部	教育委員会事務局
項	04 社会教育費					(参考)当初予算額 1,721千円	課	生涯学習課
目	02 社会教育推進費							
事業	04 家庭教育事業							

基本計画	27 多様な学びを支援する社会教育の充実
目的	発達段階に応じた学習及び交流機会を提供するとともに、PTA活動を支援することによって、全ての教育の出発点であり、子どもの成長の基礎となる家庭教育を推進する。
主な財源	府補　家庭教育支援基盤形成事業補助金（2/3）　734千円

主要な事務・事業の概要

乳児期から就学前、思春期の各発達段階に応じた学習機会の提供と家庭教育支援チームによる子育て支援活動を実施したほか、PTA活動の支援を行った。

■家庭教育支援チーム事業

子育て経験者や専門的な知識・経験を持つサポーターで構成する「家庭教育支援チーム」を各地域公民館で組織し、地域課題に即した子育て支援活動を行った。

事　業	回数	延べ参加者数
子育て交流会	15回	259人
「手紙で結ぶ家族の絆」事業	13回	339人
子育て広場	9回	212人
高校生と赤ちゃんのふれあい交流	6回	92人
合　計	43回	902人

※広報紙発行：1回

■子育て講座（講師謝金等）

事　業	回数	延べ参加者数
乳幼児期子育て講座	4回	96人
就学前、思春期子育て講座	3回	246人
親子リフレッシュ体操教室	19回	234人
合　計	26回	576人

○講師謝金（子育て講座）　246千円
○ファシリテーター謝金（家庭教育支援チーム）　403千円
○消耗品費　229千円
○食糧費（講師弁当代等）　7千円
○印刷製本費（家庭教育支援チーム通信）　224千円
○京丹後市PTA協議会補助金　475千円
市研究大会の開催、各種研修会の参加、安全会掛金等への助成

成果・課題

○子どもの発達段階に応じた子育てに関する学習機会を提供し、子どもとのコミュニケーションの大切さや、生活習慣を身に付けさせるための家庭の役割の重要性などについて啓発することができた。
○課題を関係機関と共有し、より効果的な学習会等の実施を進める必要がある。

予算科目			本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率		
款	03 民生費		245,621千円	253,497千円	7,876千円	96.8 %	部	教育委員会事務局
項	02 児童福祉費					(参考)当初予算額 248,340千円	課	子ども未来課
目	02 子育て支援費							
事業	02 放課後児童健全育成事業							

基本計画	25 子育て支援の総合的な推進		
目的	保護者の就労や疾病その他の理由により、学校の放課後、長期休業期及び土・日曜日等に適切な保育が受けられないと認められる家庭の小学校の児童に対し、適切な遊びや生活の場を与えることにより、児童の健全な育成と子育て支援の推進を図る。		
主な財源	使用料	公有財産使用料、放課後児童健全育成事業利用料	32,006千円
	国補	新型ｺﾛﾅｳｲﾙｽ感染症対応地方創生臨時交付金	8,430千円
	国補	子ども･子育て支援交付金（1/3）、保育士等処遇改善臨時特例交付金（10/10）	18,839千円
	府補	子ども･子育て支援交付金（1/3）、きょうと地域連携交付金（放課後児童クラブ休日開所事業）	18,916千円
	繰入金、諸収入	ふるさと応援基金繰入金、市有自動車損害共済金、市有自動車損害賠償金	130,408千円
	市債	放課後児童健全育成施設整備事業債（合併特例債）	1,500千円

主要な事務・事業の概要

■開設状況

年間開設日数：317日（うち峰山のみ日曜日・祝日開設：29日）

開設時間：授業終了後～午後6時30分

（長期休業期及び土曜日、日曜日・祝日は午前7時30分～午後6時30分）

年間平均利用児童数：494人（11か所、12支援単位）

峰　山	65人	長　岡	24人	いさなご	60人	大　宮	61人
口大野①	46人	口大野②	41人	網野南	50人	網野北	29人
丹　後	17人	弥　栄	31人	久美浜	32人	海　部	38人

○放課後児童クラブ運営業務委託料（11クラブ）　218,821千円
○施設無線ネットワーク整備等経費　6,761千円
（校内用LAN増設・無線LAN構築工事委託料、情報通信機器等保守委託料、情報通信機器等設定業務委託料、インターネット利用料）
○施設維持管理経費　4,032千円
（消耗品費、光熱水費、消防設備・浄化槽点検委託料、火災保険料等）
○児童送迎、送迎車両管理経費　12,308千円
（児童送迎運転委託料、燃料費、車検等整備費、自動車損害保険料等）
○備品購入費（座卓テーブル17台）　157千円

○工事請負費等　3,542千円
・口大野放課後児童クラブトイレ改修等工事　2,006千円
（設計委託料、工事請負費）
・口大野放課後児童クラブエアコン更新工事　550千円
・弥栄放課後児童クラブトイレ改修工事　986千円

参考		
	繰越明許費を除いた最終予算額	246,732千円
	実質的な予算執行率	99.5%

■令和5年度への繰越事業
・口大野放課後児童クラブトイレ改修等工事　4,490千円
（令和5年9月完了予定）
・送迎用バス安全装置設置事業（令和5年8月完了）　2,275千円

成果・課題

○利用者数が増加傾向にある中、待機児童ゼロを継続し児童の健全な育成を図るとともに、保護者の子育てと就労の両立を支援することができた。
○保育士等の処遇改善に係る国からの協力要請を受け、国の交付金を活用し、委託先の放課後児童支援員の処遇改善を行った。
○利用者が増加しても快適で充実した保育が行えるよう、小学校の空き教室等の更なる活用などによる施設拡充を考えていく必要がある。

予算科目			本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率		
	款	10 教育費	658千円	658千円	0千円	100.0 %	部	教育委員会事務局
	項	04 社会教育費				(参考)当初予算額	課	子ども未来課
	目	02 社会教育推進費				780千円		
	事業	07 放課後子ども教室事業						

基本計画	27 多様な学びを支援する社会教育の充実
目的	放課後に小学校の余裕教室を子どもたちの安全・安心な居場所として活用し、地域住民の参画により、子どもたちが心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進する。
主な財源	府補　京のまなび教室推進事業補助金（2/3）　438千円

主要な事務・事業の概要

○放課後子ども教室運営委託料（2か所）　658千円

※事業の概要

	網野北小学校区放課後子ども教室	網野南小学校区放課後子ども教室
実施場所	網野北小学校施設内	網野南小学校施設内
委託先	放課後子ども教室実行委員会	放課後子ども教室実行委員会
実登録人数	47人	71人
参加児童数	延べ1,151人（1回平均38人）	延べ1,352人（1回平均50人）
支援員の数	延べ224人（1回平均7人）	延べ205人（1回平均6人）
実施日	令和4年4月～令和5年3月（授業のある水曜日の放課後）	
活動内容	自主学習、体験活動、集団遊び、自由遊び、スポーツなど	

※実登録人数は令和5年3月末時点の人数

※新型コロナウイルス感染症対策や学校行事等のため、当初35回の実施回数を網野北小30回、網野南小27回とした。

成果・課題

○子どもたちの安全・安心な活動拠点（居場所）として放課後子ども教室を開設し、地域住民の協力を得て子どもたちに世代間交流の機会を提供するとともに、さまざまな体験活動を実施することができた。
○子ども教室の運営は、地域住民の協力を得て実施することになっており、スタッフの確保が課題である。

＜様式2＞

京丹後市教育振興計画

施策評価・進捗管理調書（内部評価結果）

担当課	担当課長
生涯学習課	安達　純

重点目標	5	生涯にわたる豊かな学びを支援します
基本的方針	まちづくりや福祉等多様な分野の関係部局、また学校園、保護者、地域住民、企業、大学等の多様な主体との協働により、住民相互のネットワークづくりを進め、子どもから大人まで、だれもが生涯にわたり学び続けることができ、その成果を地域社会に還元することのできる環境づくりを進めます。	

1. 施策の方向性　PLAN

1. 生涯学習の体制づくり	①市民の多様な学習ニーズや地域課題に対応するため、学習内容の評価・検証や情報提供等を進めます。 ②市民の自主的かつ自発的な学習の場である図書館の機能の充実と利用の促進を図ります。 ③市民の身近な学習及び交流の拠点である中央公民館及び地域公民館の活動の充実を図るとともに、地区公民館との連携を強化することによって、地域での公民館活動を支援します。 ④多様化する地域課題に対応するため、地区公民館機能を含む新たな地域コミュニティ組織の立ち上げなど、公民館と地域コミュニティのあり方について見直しの検討を進めます。
2. 人権教育の推進	①人権啓発推進協議会の活動の充実を図るとともに、関係機関と連携しながら、人権に関する正しい理解と認識を高める活動を進めます。 ②さまざまな人権問題について関係法律の理念にのっとり、正しい理解と認識を深めるため、学校園、家庭及び地域など、身近な場での学習機会の充実と促進を図るとともに、関係機関・団体と連携し、職員及び指導者の資質向上を図るための学習機会の提供に努めます。
3. 社会教育施設等の整備充実	①公民館や図書館等をはじめとする社会教育施設の設備・機能の充実を図り、社会教育の実践活動を行う環境整備を進めます。 ②老朽化が進んでいる社会教育施設は、利用者の安全・安心に資するため、計画的な整備改修を検討します。 ③市民の情報拠点であり、憩いの場である市立図書館の今後のあり方について、検討を進めます。

【参考】施策に関連するその他の計画

計画名称	計画概要	策定年月	計画期間	備考
第2次京丹後市総合計画	市の目指す基本理念、目標、将来像などを示した「基本構想」と、その構想を実現するための各種施策を総合的、計画的に体系化した「基本計画」	平成27年3月	平成27年度～令和6年度	
京丹後市子どもの読書活動第三次推進計画	本市の将来を担う子どもたちが、今後も更に本に親しみ、生涯にわたる読書習慣を身に付けることができるように、子どもの読書活動を総合的かつ計画的に推進するために策定	令和2年3月	令和2年度～令和6年度	
京丹後市文化芸術振興計画	市民が主体となって文化芸術活動に取り組み、楽しみを感じられる文化芸術のまちづくりを総合的かつ計画的に推進するために策定	令和5年3月	令和5年度～令和14年度	

2. 主な取組と構成事務事業一覧　PLAN　DO　※各事業の成果・課題については、別紙決算附属資料参照　CHECK　ACT

1. 生涯学習の体制づくり			決算額（単位：千円）			事務の改善
主な取り組み ↓	事務事業名称・事業内容（実績）	担当課	R3決算額	R4決算額	R5予算額	評価を踏まえた今後の方向性
① 市民の多様な学習ニーズや地域課題に対応するため、学習内容の評価・検証や情報提供等を進めます。 ② 市民の自主的かつ自発的な学習の場である図書館の機能の充実と利用の促進を図ります。 ③ 市民の身近な学習及び交流の拠点である中央公民館及び地域公民館の活動の充実を図るとともに、地区公民館との連携を強化することによって、地域での公民館活動を支援します。 ④ 多様化する地域課題に対応するため、地区公民館機能を含む新たな地域コミュニティ組織の立ち上げなど、公民館と地域コミュニティのあり方について見直しの検討を進めます。						
1	社会教育委員設置事業 社会教育委員を設置し、社会教育行政全般について調査・研究及び審議し、答申及び建議を行うことによって、市民の声を反映した社会教育事業を推進する。	生涯学習課	474	364	503	現状維持
2	はたちを祝う式典開催事業 人生の節目としての式典を開催することによって、20歳になったことの自覚を促すとともに、今後自らの人生を生き抜こうとする青年を祝い激励する。	生涯学習課	1,183	1,254	1,079	改善・効率化
3	青少年教育事業 地域の青少年を守り育てる活動を支援し、将来を担う青少年の心豊かな人間の基礎づくりと健やかな成長を促す。	生涯学習課	1,057	1,128	1,501	現状維持

1. 生涯学習の体制づくり		決算額（単位：千円）			事務の改善
主な取り組み ↓ 事務事業名称・事業内容（実績）	担当課	R3決算額	R4決算額	R5予算額	評価を踏まえた今後の方向性
4 高齢者教育事業 高齢者大学の講座を市内全域で実施することによって、高齢者の社会参加と生きがいづくりに貢献するとともに、その知識や経験を活かした地域活動を推進する。	生涯学習課	2,384	3,135	2,809	現状維持
5 中央公民館管理運営事業 地域住民の学習及び交流活動の拠点として設置されている地区（自治）公民館活動を支援し、地域の活性化を推進する。	生涯学習課	36,281	35,820	33,351	現状維持
6 地域公民館管理運営事業 地域の学習・コミュニティ活動の拠点として設置している地域公民館の管理運営を行い、地域住民の身近な学習・交流機会の確保と充実を図る。また、社会教育活動、生涯学習等を行う拠点として、峰山、丹後及び弥栄の各地域公民館の管理運営を行う。	生涯学習課	21,783	26,337	28,825	現状維持
7 公民館一般経費 公民館の事務事業に必要な公用車などを適切に管理するほか、会計年度任用職員を各地域公民館に配置し、公民館の円滑な運営を図る。	生涯学習課	32,500	31,824	33,320	現状維持
8 図書館管理運営事業 生涯学習の拠点施設として、市民の読書、調査研究等の要求に応えるよう施設整備を進めるとともに、様々な資料や情報を収集、整理、保存し提供するための図書館・図書室運営を行う。	生涯学習課	71,294	67,036	77,554	現状維持
9 社会教育総務一般経費 会計年度任用職員を配置し社会教育事業を円滑に実施するほか、女性教育活動団体に対し活動支援の補助金を交付し生涯学習の振興を図る。	生涯学習課	3,342	3,366	3,533	現状維持

2. 人権教育の推進		決算額（単位：千円）			事務の改善
主な取り組み ↓ 事務事業名称・事業内容（実績）	担当課	R3決算額	R4決算額	R5予算額	評価を踏まえた今後の方向性
① 人権啓発推進協議会の活動の充実を図るとともに、関係機関と連携しながら、人権に関する正しい理解と認識を高める活動を進めます。 ② さまざまな人権問題について関係法律の理念にのっとり、正しい理解と認識を深めるため、学校園、家庭及び地域など、身近な場での学習機会の充実と促進を図るとともに、関係機関・団体と連携し、職員及び指導者の資質向上を図るための学習機会の提供に努めます。					
10 人権教育事業 あらゆる人権問題について正しく理解し、認識を深めるための学習機会を提供するなど、人権教育を推進することにより、人権が尊重され、誰もが自分らしく生きることができる社会の実現を目指す。	生涯学習課	181	224	269	現状維持

3. 社会教育施設等の整備充実		決算額（単位：千円）			事務の改善
主な取り組み ↓ 事務事業名称・事業内容（実績）	担当課	R3決算額	R4決算額	R5予算額	評価を踏まえた今後の方向性
①公民館や図書館等をはじめとする社会教育施設の設備・機能の充実を図り、社会教育の実践活動を行う環境整備を進めます。 ②老朽化が進んでいる社会教育施設は、利用者の安全・安心に資するため、計画的な整備改修を検討します。 ③市民の情報拠点であり、憩いの場である市立図書館の今後のあり方について、検討を進めます。					
11 地区公民館管理運営事業 地域住民の身近な生涯学習・地域活動の拠点である、網野地域の地区公民館を維持・管理する。	生涯学習課	5,526	4,329	4,615	現状維持
12 峰山いさなご施設管理運営事業 林業の振興のほか、スポーツ及びレクリエーション活動による市民の健康づくり、生きがいづくりを推進し、市民福祉の向上を図る。	生涯学習課	9,137	9,400	10,063	現状維持
13 ﾏｽﾀｰｽﾞﾋﾞﾚｯｼﾞ管理運営事業 大宮ふれあい工房（陶芸・染色体験等施設）、ふれあいスポーツ広場等を管理運営することで、市民の交流及び健康づくりの場を提供し、生涯学習の推進を図る。	生涯学習課	15,771	16,830	17,283	現状維持
14 ｱｸﾞﾘｾﾝﾀｰ管理運営事業 施設の維持管理及び運営を行い、農業・農村の活性化及び地域住民の福祉・健康増進に寄与する。	生涯学習課	6,631	7,146	6,827	現状維持
15 たちばな会館管理運営事業 橘地区における生涯学習及びコミュニティ活動の拠点として当該施設を管理運営し、地域住民に各種活動の場を提供するとともに、施設の利用の促進を図る。	生涯学習課	1,173	1,170	1,405	現状維持
16 網野教育会館管理運営事業 教育及び地域の文化活動・生涯学習の拠点として当該施設を管理運営し、地域住民に各種活動の場を提供するとともに、施設の利用の促進を図る。	生涯学習課	1,216	1,364	1,958	現状維持
	計	209,933	210,727	224,895	

3. 教育振興計画で掲げている主な目標指標

基本的方針	まちづくりや福祉等多様な分野の関係部局、また学校園、保護者、地域住民、企業、大学等の多様な主体との協働により、住民相互のネットワークづくりを進め、子どもから大人まで、だれもが生涯にわたり学び続けることができ、その成果を地域社会に還元することのできる環境づくりを進めます。

主な目標指標	目標指標	単位	計画作成時	年度	実績値（現状）	年度	目標値	年度
	青少年の体験活動事業数	事業	42	H25	31	R4	60	R6
	趣味・教養講座数	事業	29	H25	54	R4	35	R6
	地域課題学習講座数	事業	2	H25	10	R4	10	R6
	高齢者大学の参加者数	人	789	H25	692	R4	1,000	R6
	人権学習会の参加者数	人	820	H25	514	R4	1,200	R6
	図書の年間貸出冊数（市民1人当たり）	冊	5.2	H25	5.48	R4	7.0	R6
	地域公民館施設の利用回数	回	4,308（令和元年度）※改正時追加指標	R1	3,793	R4	7,000	R6

4. 施策の進捗状況の評価と今後の課題［基本的方針の達成に向け、施策がどの程度進捗しているか］ CHECK ACT

進捗状況区分	評価	令和4年度成果と今後の課題
◎ 予定以上に進んでいる ○ 予定どおり進んでいる ▲ 少し遅れている × 大幅に遅れている	▲	**《青少年の体験活動事業数》** コロナ禍の中、計画通りの事業実施ができない団体もあったが、青少年の健やかな成長を促す体験活動や地域活動を支援することができた。今後も社会教育団体や学校、地域と連携・協力をしながら学習・体験の機会を提供する。 **《趣味・教養講座数》** コロナ禍の中、感染症対策を講じて可能な限り実施し、市民の自発的な学習を支援し継続的な学習の機会を提供することができた。今後は地域や民間団体などによる自主的な活動を促進させ、地域公民館による取り組みは減少させていく。 **《地域課題学習講座数》** 各町公民館連絡協議会や地域公民館を中心に地域の現状把握や課題共有に努め講座を実施している。京丹後市の歴史や自然について学ぶ講座が好評であり成果をあげている。 コミュニティへ移行する地域においても、公民館活動や生涯学習活動など地域課題を解決する取り組みを継続できるような仕組みを構築する必要がある。 **《高齢者大学の参加者数》** コロナ禍の中であったが、十分に感染症対策を講じながらおおむね計画通りに講座を実施することができた。高齢者の生きがいづくり、健康づくり、仲間づくりに寄与することができた。今後、より一層の高齢者の社会参加の促進を図るため、高齢者大学の在り方について検討していく必要がある。 **《人権学習会の参加者数》** 人権講演会や人権映画会、障害者交流研修会等を通じて、人権学習の機会を提供することができた。社会情勢が目まぐるしく変化する中、人権問題は年々多様化かつ複雑化しており、それらを適切に把握し、効果的な学習機会を提供し啓発を広げていく必要がある。 **《図書の年間貸出冊数（市民１人当たり）》** コロナ拡大により利用者が減ったものの、コロナ禍以前の水準まで戻ってきた。各種行事もおおむね計画どおりに実施することができ、市民の読書推進を図ることができた。 今後は、未利用者への図書館活動の周知により利用拡大を図るとともに、都市拠点整備の中で新たな図書館のあり方を検討していく必要がある。 **《地域公民館施設の利用回数》** コロナ禍であったが、利用制限がなかったこと、また、「公共施設の市民等無料開放」が令和4年度も延長されたこともあり、前年度より大きく利用回数が増加したものの、コロナ前までは戻っていない。 今後は、社会教育活動や生涯学習及びコミュニティ活動を行う拠点として管理運営を行い、地域の身近な課題、生活課題等に即した学習機会の提供に努める。 丹後地域公民館は、令和2年度に耐震改修工事が完了したが、他の施設についても老朽化に伴う計画的な維持管理が課題である。 ※平成30年12月丹後地域公民館耐震強度不足のため貸館休止、平成30年12月から令和元年10月までは丹後庁舎を、10月から令和3年3月までは丹後庁舎と旧豊栄小学校を代替施設として使用した。 ※平成30年度～令和2年度の数値は、代替施設の数値を含めた数値。

5. 今後の施策展開の考え方（令和5年～令和6年度での主な取組）

ACT

区分	No.	具 体 的 内 容
施策展開の考え方	1	新たな地域コミュニティへの移行が始まる中、公民館体制及び新たな地域コミュニティにおける公民館活動の推進について、地域や関係機関等との協議等をていねいに進める必要がある。併せて都市拠点整備の中で新たな図書館のあり方について検討する。
	2	講演会の参加者が固定化傾向にあるため、講演の内容について、同和問題など継続的な課題はあるものの、インターネットによる人権侵害や自己実現、幸福追求など新たな人権課題にも目を向けながら、幅広く人権について考える機会を提供していく。
	3	市文化芸術振興計画に基づき、関係団体等と連携し、優れた芸術・文化の鑑賞機会の提供、地域の特色を活かした芸術・文化活動を実施並びに支援するとともに、文化活動を支える人材育成を地道に取り組む。
	4	必要な修繕の実施を行うなど、利用者が安心・安全に利用できる環境を整備し、併せて利便性の向上を図るとともに、今後の施設の在り方を検討する必要がある。

予算科目		本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率		
款	10 教育費	364千円	399千円	35千円	91.2 %	部	教育委員会事務局
項	04 社会教育費				(参考)当初予算額	課	生涯学習課
目	01 社会教育総務費				510千円		
事業	02 社会教育委員設置事業						

基本計画	27 多様な学びを支援する社会教育の充実
目的	社会教育委員を設置し、社会教育行政全般について調査・研究及び審議し、答申及び建議を行うことによって、市民の声を反映した社会教育事業を推進する。
主な財源	

主要な事務・事業の概要

社会教育委員会議を開催し、社会教育事業及び社会教育の諸課題について審議するとともに、委員の研修機会を提供した。

○委員報酬（委員：15人、報酬対象：12人）	241千円
○旅費（費用弁償、研修事業への参加旅費）	44千円
○需用費（研修事業資料代）	2千円
○役務費（有料道路通行料、駐車場使用料）	12千円
○負担金、補助及び交付金	65千円
・京都府及び丹後地方社会教育委員連絡協議会分担金	

＜会議の主な内容＞（3回開催）
- 京丹後市文化芸術振興計画（案）について
- 「はたちを祝う式典」、「新たな地域コミュニティ」について
- 令和5年度予算、社会教育推進の重点について　ほか

＜委員研修等＞
- 丹後地方社会教育委員連絡協議会理事・幹事会（3回：宮津市）
- 丹後地方社会教育委員連絡協議会総会・研修会（6月9日：与謝野町）
- 京都府社会教育委員連絡協議会総会（6月24日：南丹市）
- 京都府社会教育委員連絡協議会研究大会（11月17日：京丹後市）
  ※兼丹後地方社会教育委員連絡協議会第2回研修会

成果・課題

社会教育事業及び社会教育の諸課題について審議し、市民の意向を反映した社会教育行政を進めることができた。

予算科目		本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率		
款	10 教育費	1,254千円	1,461千円	207千円	85.8 %	部	教育委員会事務局
項	04 社会教育費				(参考)当初予算額	課	生涯学習課
目	02 社会教育推進費				1,461千円		
事業	01 はたちを祝う式典開催事業						

基本計画	27 多様な学びを支援する社会教育の充実
目的	人生の節目としての式典を開催することによって、20歳になったことの自覚を促すとともに、今後自らの人生を生き抜こうとする青年を祝い激励する。
主な財源	

主要な事務・事業の概要

〈京丹後市はたちを祝う式典　開催概要〉
- 日　時　令和5年3月19日（日）午後2時～3時40分
- 会　場　京都府丹後文化会館
- 対　象　平成14年4月2日～平成15年4月1日生まれの市内在住者及び市内各中学校卒業者582人（男286人、女296人）
- 出席者　472人（出席率81%）
- 内　容　オープニング：ピアノ演奏、メッセージ（ピアニスト　安達朋博氏）
  式　典：式辞、祝辞、はたちの主張、恩師からのメッセージ等

○報償費	528千円
・報償費（記念アトラクション謝金）	
・報償物品（慶弔用ふくさ）	
○需用費（消耗品費、燃料費）	43千円
○役務費（通信運搬費、クリーニング手数料、ピアノ調律手数料）	49千円
○委託料	443千円
・看板作製委託料	
・ビデオ撮影・編集委託料（式典中継配信）	
・写真データ作成・配信委託料（記念写真）	
○使用料及び賃借料（会場借上料等）	191千円

成果・課題

○民法改正により成人年齢が20歳から18歳に引き下げられたが、本市では高校卒業後一定の社会経験を積んだタイミングで家族や旧友、地域社会とのつながりをより感じることができる20歳を対象に「はたちを祝う式典」として開催した。
○式典出席者に対し、市を挙げて20歳になったことを祝い励ますことで、自立心や郷土への愛着心を醸成することにつながった。

予算科目			本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率		
款	10 教育費		1,128千円	1,157千円	29千円	97.4 %	部	教育委員会事務局
項	04 社会教育費					(参考)当初予算額	課	生涯学習課
目	02 社会教育推進費					1,518千円		
事業	02 青少年教育事業							

基本計画	27 多様な学びを支援する社会教育の充実
目的	地域の青少年を守り育てる活動を支援し、将来を担う青少年の心豊かな人間の基礎づくりと健やかな成長を促す。
主な財源	

主要な事務・事業の概要

○京丹後市青少年健全育成会補助金　400千円

青少年の体験活動やあいさつ運動など、青少年の健全育成に資する取組を実施する組織に対し、補助金を交付

○少年少女児童合唱団補助金（3団体）　208千円

音楽を通して子どもたちの自分を表現する力や社会性、豊かな心を育む活動を行う団体に対し、補助金を交付

久美浜児童合唱団、大宮児童合唱団、網野少年少女合唱団

○地域子ども教室補助金（4団体×130千円）　520千円

地域の中に子どもたちの居場所を確保するとともに、さまざまな体験活動、住民との交流活動等地域全体で子どもを守り育てる活動を行う教室に対し、補助金を交付

久美浜二区子ども広場、ブーフ・まむ、新山ひこばえの集い、チャレンジ教室

成果・課題

○新型コロナウイルス感染予防のため、計画通りの事業実施ができない団体もあったが、青少年の健やかな成長を促す体験活動や地域活動を支援することができた。
○今後も市青少年健全育成会等関係団体と連携しながら、より効果的な青少年活動を推進する必要がある。

予算科目			本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率		
款	10 教育費		3,135千円	3,285千円	150千円	95.4 %	部	教育委員会事務局
項	04 社会教育費					(参考)当初予算額	課	生涯学習課
目	02 社会教育推進費					3,238千円		
事業	03 高齢者教育事業							

基本計画	27 多様な学びを支援する社会教育の充実
目的	高齢者大学の講座を市内全域で実施することによって、高齢者の社会参加と生きがいづくりに貢献するとともに、その知識や経験を活かした地域活動を推進する。
主な財源	諸収入　社会教育事業等参加料　692千円 諸収入　市有自動車損害共済金　571千円

主要な事務・事業の概要

■高齢者大学

・受講者数　692人（令和5年3月31日現在）

・実施地域　各町域（各地域公民館主管）

市全域（生涯学習課主管：百才活力学園）

・事業の概要

【一般講座及び教養講座】

学園	一般講座		教養講座			
	回数	延べ参加者数	延べ回数	延べ参加者数	講座数	内容
峰山	10回	349人	118回	1,220人	11講座	写真、絵画、他
大宮	9回	249人	38回	493人	7講座	書道、歌ごえ、他
網野	8回	512人	155回	2,041人	12講座	ｸﾞﾗｳﾝﾄﾞｺﾞﾙﾌ、唱歌、他
丹後	6回	150人	52回	475人	9講座	生花、そば打ち、他
弥栄	8回	214人	56回	498人	7講座	絵手紙、ピラティス、他
久美浜	8回	246人	60回	622人	8講座	手芸、古典文学、他
合計	49回	1,720人	479回	5,349人	54講座	

※合同講座を含む

【百才活力学園】 8講座　延べ参加者数77人

内容：長寿食レシピを活用した料理教室

○報償費（講師謝金、出演謝礼品）　1,768千円
○旅費　8千円
○需用費（消耗品費、燃料費、食糧費）　195千円
○修繕料（マイクロバス修繕）　571千円
○委託料（バス運転委託料）　382千円
○使用料及び賃借料（会場使用料、有料道路通行料等）　211千円

成果・課題

○生きがいづくり、健康づくり、仲間づくりの機会を提供し、高齢者の社会参加の促進と生きがいづくりに寄与することができた。
○参加者の増加に努めるとともに、より一層高齢者の社会参加の促進と学習の成果を地域活動等にいかす取組を推進する必要がある。

予算科目			本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率		
款	10 教育費		35,820千円	35,914千円	94千円	99.7 %	部	教育委員会事務局
項	04 社会教育費					(参考)当初予算額 36,326千円	課	生涯学習課
目	03 公民館費							
事業	01 中央公民館管理運営事業							
基本計画	27 多様な学びを支援する社会教育の充実							

主な財源

市債　過疎地域持続的発展特別事業債（過疎対策債）　26,700千円

目的

地域住民の学習及び交流活動の拠点として設置されている地区（自治）公民館活動を支援し、地域の活性化を推進する。

主要な事務・事業の概要

○地区公民館活動交付金　33,781千円

区　分	地区公民館数	交付金額
峰山町公民館連絡協議会	8館	7,695千円
大宮町公民館連絡協議会	15館	6,013千円
網野町公民館連絡協議会	12館	7,562千円
丹後町公民館連絡協議会	4館	3,166千円
弥栄町公民館連絡協議会	5館	3,177千円
久美浜町公民館連絡協議会	8館	6,168千円
合　計	52館	33,781千円

積算内訳（調整有）　地区割　20,000円×218地区
世帯数割　1,400円×19,969世帯
町均等割　250,000円×6町

○公民館総合（傷害）保険料（52地区館分）　2,039千円

成果・課題

○地区公民館活動の支援を通じて、住民のコミュニティ活動の推進を図るとともに、学習及び交流機会の提供など、地区公民館が地域づくりの拠点としての機能を発揮することに寄与した。
○持続可能な地域づくりのため、新たな地域コミュニティへのスムーズな移行を推進するとともに、地域コミュニティでの公民館活動が活発に行われるよう働きかける必要がある。

予算科目			本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率		
款	10 教育費		26,337千円	29,455千円	3,118千円	89.4 %	部	教育委員会事務局
項	04 社会教育費					(参考)当初予算額 25,447千円	課	生涯学習課
目	03 公民館費							
事業	02 地域公民館管理運営事業							
基本計画	27 多様な学びを支援する社会教育の充実							

主な財源

使用料	峰山地域公民館使用料	410千円
使用料	丹後地域公民館使用料	33千円
使用料	弥栄地域公民館使用料	3千円
諸収入	社会教育事業等参加料	71千円
諸収入	峰山地域公民館水道使用料負担金	167千円
諸収入	丹後地域公民館光熱水費負担金	54千円

目的

地域の学習・コミュニティ活動の拠点として設置している地域公民館の管理運営を行い、地域住民の身近な学習・交流機会の確保と充実を図る。また、社会教育活動、生涯学習等を行う拠点として、峰山、丹後及び弥栄の各地域公民館の管理運営を行う。

主要な事務・事業の概要

＜地域公民館利用状況＞

区　分	利用回数	延べ利用者数	施設等維持管理経費
峰山地域公民館	2,428回	35,800人	9,851千円
丹後地域公民館	573回	8,341人	8,227千円
弥栄地域公民館	792回	21,872人	7,248千円

＜主な公民館事業＞

事業種別	事業・講座名	回数	参加者数	決算額
成人教育	花とｸﾞﾘｰﾝ講座(峰山・大宮・弥栄)	3回	40人	18千円
	ｼﾞｵ・山野草ｳｫｰｷﾝｸﾞ(網野・丹後・久美浜)	3回	49人	18千円
	はじめての大人の木工教室(網野)	1回	16人	6千円
	みんなで楽しむ山登り講座(丹後)	3回	35人	18千円
	ﾊﾞｰﾄﾞｳｫｯﾁﾝｸﾞ体験講座(丹後)	2回	17人	12千円
	Twinぽーるｴｸｻｻｲｽﾞ教室(久美浜)	2回	24人	12千円
	防災講座(久美浜)	1回	16人	6千円
青少年教育	夏休み子ども体験教室(峰山・大宮・弥栄)	4回	40人	12千円
	網野町ｳｨｰｸｴﾝﾄﾞ事業(網野)	8回	274人	68千円
	丹後町少年少女意見発表大会(丹後)	1回	230人	13千円
家庭教育	親と子のふるさと教室(久美浜)	2回	30人	6千円

※ 参加者数は延べ人数

○講座・教室等の実施、事業の広報　312千円
・講師謝金、消耗品費、燃料費、バス運転委託料、会場借上料ほか
○地域公民館施設等維持管理経費　26,025千円
・需用費（消耗品費、燃料費、印刷製本費、光熱水費）　11,884千円
・役務費（通信運搬費、ゴミ処理手数料ほか）　350千円
・委託料（宿日直、施設清掃、エレベーター保守点検ほか）　10,321千円
・使用料及び賃借料（テレビ受信料、土地借上料）　286千円
・修繕費（峰山地域公民館非常出入口鉄扉修繕ほか）　3,048千円
・備品購入費（蓄圧式粉末消火器ほか）　136千円

参考		
	繰越明許費を除いた最終予算額	26,705千円
	実質的な予算執行率	98.6%

■令和5年度への繰越事業
丹後地域公民館修繕工事　令和5年9月完了予定　2,750千円

成果・課題

○令和4年度は施設使用制限などがなく、各事業を計画どおり実施して市民に学習機会を提供することができ、社会教育活動を推進することができた。
○前年度までの施設使用制限などで減少した利用者数などは十分に回復したとは言えず、市民のニーズや地域の特性・課題に即した事業を展開する必要がある。
○引き続き参加者の増加を図るため、事業の充実や、幅広い広報活動などにより社会教育活動を推進する。

予算科目		本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率		
款	10 教育費	31,824千円	31,981千円	157千円	99.5 %	部	教育委員会事務局
項	04 社会教育費				(参考)当初予算額 32,912千円	課	生涯学習課
目	03 公民館費						
事業	50 公民館一般経費						

基本計画	27 多様な学びを支援する社会教育の充実
目的	公民館の事務事業に必要な公用車などを適切に管理するほか、会計年度任用職員を各地域公民館に配置し、公民館の円滑な運営を図る。
主な財源	

主要な事務・事業の概要

○会計年度任用職員（社会教育指導員・事務補助員）任用経費 30,684千円
（2人×6館）
- 報酬 22,231千円
- 期末手当 3,977千円
- 共済費 4,044千円
- 費用弁償 432千円

○公民館大会への参加 71千円
- 旅費 10千円
- 委託料（バス運転委託料） 38千円
- 使用料及び賃借料（有料道路通行料、駐車場使用料） 23千円

○地域公民館配置公用車の維持管理経費（5台） 939千円
- 需用費（燃料費、修繕料） 719千円
- 役務費（登録手数料、自動車損害保険料等） 183千円
- 公課費（自動車重量税） 37千円

○京都府公民館連絡協議会負担金 33千円

○AED借上料（峰山・丹後地域公民館） 63千円

○その他経費（消耗品費、食糧費） 34千円

成果・課題

○地域公民館について、正職員である地域公民館長1人と会計年度任用職員2人の3人体制により適正に運営することができた。
○さらに公民館職員の資質向上と地域公民館間の情報共有の機会を確保する必要がある。

予算科目		本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率		
款	10 教育費	67,036千円	67,726千円	690千円	98.9 %	部	教育委員会事務局
項	04 社会教育費				(参考)当初予算額 71,811千円	課	生涯学習課
目	04 図書館費						
事業	01 図書館管理運営事業						

基本計画	27 多様な学びを支援する社会教育の充実		
目的	生涯学習の拠点施設として、市民の読書、調査研究等の要求に応えるよう施設整備を進めるとともに、様々な資料や情報を収集、整理、保存し提供するための図書館・図書室運営を行う。	主な財源	国補 新型ｺﾛﾅｳｲﾙｽ感染症対応地方創生臨時交付金 100千円 寄附金 ふるさと応援寄附金 1,100千円 繰入金 ふるさと応援基金繰入金 5,000千円

主要な事務・事業の概要

○図書館協議会委員報酬・費用弁償 161千円
（委員10人、会議2回、視察1回）

○市立図書館（2館）図書室（4室）の管理運営費 66,875千円
- 会計年度任用職員任用経費（通常業務19人、代行職員） 48,576千円
- 図書購入費（AV資料含む） 9,081千円
- 雑誌及び新聞購入費 1,262千円
- ブックスタート事業経費 171千円
- Wi-Fiルーター通信料 86千円
- 機器等購入費、図書システム、端末設定手数料 1,235千円
  端末機器増設（3台）
- 図書システム利用料、保守委託料 2,939千円
- 光熱水費（あみの図書館） 1,961千円
- その他（図書装備用品等） 1,564千円

<主なサービス内容>
- 資料（図書・AV資料・雑誌新聞）の収集、整理、保存、貸出など
- 閲覧、学習スペースの提供（Wi-Fi接続サービス）・図書館相互協力
- 国会図書館デジタル化資料送信サービス・おはなし会等の行事開催・広報活動
- 学校等との連携による読書推進事業・読み聞かせボランティアの活用など

<利用状況等>

区分	蔵書数（年度末時点）	年間貸出点数	年間貸出者数
峰山図書館	83,910点	71,454点	12,120人
あみの図書館	105,964点	100,522点	18,908人
大宮図書室	37,424点	64,229点	10,149人
弥栄図書室	28,928点	32,214点	6,297人
丹後図書室	28,226点	32,385点	6,484人
久美浜図書室	26,644点	54,006点	9,897人
合計	311,096点	354,810点	63,855人

※市民1人当たりの年間貸出冊数：5.48冊

成果・課題

○市内全域にサービスを行い読書推進を図ることができた。
○未利用者等への図書館活動の周知、サービスの充実に努めるなどし、利用拡大を図る必要がある。
○図書館協議会の答申や都市拠点構造を進める中で、今後の図書館の在り方について十分に検討していく必要がある。

予算科目		本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率		
款	10 教育費	3,366千円	3,498千円	132千円	96.2 %	部	教育委員会事務局
項	04 社会教育費				(参考)当初予算額	課	生涯学習課
目	01 社会教育総務費				3,488千円		
事業	50 社会教育総務一般経費						

基本計画	27 多様な学びを支援する社会教育の充実
目的	会計年度任用職員を配置し社会教育事業を円滑に実施するほか、女性教育活動団体に対し活動支援の補助金を交付し生涯学習の振興を図る。
主な財源	

主要な事務・事業の概要

○会計年度任用職員任用経費（社会教育指導員1人） 2,979千円
（配置先：生涯学習課）
- 報酬 2,042千円
- 職員手当 375千円
- 共済費 401千円
- 旅費 161千円

○事務費（消耗品費） 26千円
- 旅費（普通旅費） 12千円
- 需用費（消耗品費） 14千円

○京丹後市連合婦人会活動補助金 361千円
活動内容：講演会、各種ボランティア、管外研修　ほか

成果・課題

○社会教育指導員の配置により、各種社会教育事業を円滑に進めることができた。
○市連合婦人会の活動を支援することにより、女性の自主的な学習活動、ボランティア活動等の推進に寄与した。

予算科目		本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率		
款	10 教育費	224千円	268千円	44千円	83.5 %	部	教育委員会事務局
項	04 社会教育費				(参考)当初予算額	課	生涯学習課
目	02 社会教育推進費				268千円		
事業	06 人権教育事業						

基本計画	22 人権を尊重するまちづくり
目的	あらゆる人権問題について正しく理解し、認識を深めるための学習機会を提供するなど、人権教育を推進することにより、人権が尊重され、誰もが自分らしく生きることができる社会の実現を目指す。

主な財源

国補	障害者地域生活支援事業費補助金（1/2）	10千円
府補	障害者地域生活支援事業費補助金（1/4）	4千円
府補	人権問題啓発事業費補助金	81千円

主要な事務・事業の概要

＜人権学習＞
- 人権教育研究京丹後市大会（R4.8.19）　参加者：295人
  講演「人権教育の視点から学ぶ合理的配慮」
  講師　LGBT講演家 中尾 勇守 氏
  （会場：京都府丹後文化会館）
- 夏休み子ども映画会（R4.8.7）　参加者：135人（3会場）
  映画「パウ・パトロール　ザ・ムービー」の上映
  （会場：久美浜庁舎、弥栄庁舎、峰山地域公民館）

○講師謝金 63千円
○使用料（会場借上料） 94千円
○需用費（消耗品費） 21千円

＜障害者交流研修会＞
- 視覚障害者交流研修会（R4.6.22）　参加者：20人
  ギター演奏、陶芸体験
  （会場：大宮ふれあい工房）
- 聴覚障害者交流研修会（R4.10.1）　参加者：14人
  ジェスチャーゲーム、パステルアート体験
  （会場：大宮保健センター）

○講師謝金 12千円
○委託料（マイクロバス運転委託料） 32千円
○需用費（燃料費） 2千円

成果・課題

○人権教育研究京丹後市大会や夏休み子ども映画会を通じ、人権学習の機会を提供することができた。また、障害者交流研修会を通じて、障害者の交流及び社会参加の促進につなげることができた。
○誰もが平等で、人権を尊重する心を身につけ、日常生活の中で無意識に行動できるよう、啓発活動だけでなく学習活動を充実させることが必要である。

予算科目		本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
款	10 教育費	4,329千円	4,524千円	195千円	95.6 %		
項	04 社会教育費				(参考)当初予算額	課	生涯学習課
目	03 公民館費				4,524千円		
事業	03 地区公民館管理運営事業						

基本計画	27 多様な学びを支援する社会教育の充実
目的	地域住民の身近な生涯学習・地域活動の拠点である、網野地域の地区公民館を維持・管理する。

主な財源		
諸収入	網野、新庄公民館光熱水費負担金	208千円

主要な事務・事業の概要

○地区公民館施設管理費

・地区公民館施設管理委託料（1館分）	480千円
・地区公民館火災保険料等補助金（7館分）	1,920千円
・その他地区公民館管理経費（9館分）	1,929千円
報償費（地区公民館管理謝金）	936千円
需用費（消耗品費、燃料費、光熱水費、修繕料）	819千円
役務費（通信運搬費、アスベスト分析等検査手数料、し尿汲み取り手数料、火災保険料）	160千円
委託料（消防設備等保守点検委託料）	10千円
使用料及び賃借料（ガス警報器使用料）	4千円

<利用状況>

・網野地区公民館

区　分	利用回数	延べ利用者数
大広間	70回	1,205人
大会議室・小会議室	107回	1,898人
公民館会議室	2回	20人
和　室	49回	387人
調理室	1回	10人
合　計	229回	3,520人

成果・課題

○適正に維持管理を行うことにより、施設の機能、利用者の利便性を維持確保することができた。
○網野地域には地区集会施設の一部を公民館施設として占用しているものがある。この施設管理費について負担割合を設定し、補助金などにより支出しているが、他地域の地区公民館の現状を踏まえ、市負担の軽減・廃止に向けて調整を図る必要がある。

予算科目		本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
款	10 教育費	9,400千円	9,495千円	95千円	98.9 %		
項	04 社会教育費				(参考)当初予算額	課	生涯学習課
目	06 社会教育施設費				9,788千円		
事業	01 峰山いさなご施設管理運営事業						

基本計画	27 多様な学びを支援する社会教育の充実
目的	林業の振興のほか、スポーツ及びレクリエーション活動による市民の健康づくり、生きがいづくりを推進し、市民福祉の向上を図る。

主な財源		
使用料	公有財産使用料	49千円
使用料	峰山林業総合ｾﾝﾀｰ使用料	38千円
使用料	峰山いさなご工房使用料	639千円
使用料	峰山いさなごｺｰﾄ使用料	15千円
諸収入	峰山林業総合ｾﾝﾀｰ木工教室等材料代	31千円
諸収入	太陽光発電余剰電力料	73千円

主要な事務・事業の概要

○会計年度任用職員（社会教育指導員・作業員）任用経費（3人）	6,299千円
・報酬	4,471千円
・期末手当	863千円
・共済費（社会保険料、労災保険料、雇用保険料）	880千円
・費用弁償	85千円
○管理運営経費	3,101千円
・需用費（消耗品費、燃料費、印刷製本費、光熱水費、修繕料）	2,452千円
・役務費（通信運搬費、浄化槽法定検査手数料、火災保険料	157千円
・委託料（消防設備等保守点検委託料、浄化槽維持管理委託料）	306千円
・使用料及び賃借料（テレビ受信料、機械器具借上料）	47千円
・備品購入費（糸鋸盤1台、小型集塵機1台、自動カンナ1台	139千円

<利用状況>

区　分	利用回数	延べ利用人数
林業センター	173回	807人
いさなご工房	317回	908人
いさなごコート	326回	4,926人
合　計	816回	6,641人

成果・課題

適切な施設の管理及び貸し出し、木工・陶芸の指導、定期講座の実施などを通して、市民に学習と交流の機会を提供し、スポーツ・文化活動の振興、健康づくりの推進などに寄与することができた。

予算科目		本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
款	10 教育費	16,830千円	16,979千円	149千円	99.1 %		
項	04 社会教育費				(参考)当初予算額	課	生涯学習課
目	06 社会教育施設費				17,287千円		
事業	02 ﾏｽﾀｰｽﾞ ﾋﾞﾚｯｼﾞ管理運営事業						

基本計画	27 多様な学びを支援する社会教育の充実

主な財源		
使用料	大宮ふれあい工房使用料	813千円
使用料	大宮ふれあいｽﾎﾟｰﾂ広場使用料	1千円
国補	新型ｺﾛﾅｳｲﾙｽ感染症対応地方創生臨時交付金	720千円
諸収入	大宮ふれあい工房関係諸収入	7千円

目的

大宮ふれあい工房（陶芸・染色体験等施設）、ふれあいスポーツ広場等を管理運営することで、市民の交流及び健康づくりの場を提供し、生涯学習の推進を図る。

主要な事務・事業の概要

○会計年度任用職員（事務補助員・作業員）任用経費（6人） 10,442千円
- 報酬 7,694千円
- 期末手当 1,474千円
- 共済費 1,035千円
- 旅費 239千円

○施設維持管理経費 6,229千円
- 需用費（消耗品費、燃料費、光熱水費、印刷製本費等） 3,191千円
- 役務費（通信運搬費、手数料、火災保険料） 137千円
- 委託料（電気設備保安管理委託料、樹木伐採委託料等） 568千円
- 使用料及び賃借料（テレビ受信料、清掃用具借上料等） 62千円
- 工事請負費（エアコン取付工事、高圧電気設備取替工事等） 2,084千円
- 備品購入費（消火栓ホース） 187千円

○体験事業経費（材料代） 159千円

<利用状況>

区分		延べ利用者数等	
ふれあい工房	展示室	利用者数	1,008人
	会議室	利用者数	1,167人
	陶芸体験	体験者数	449人
	染色体験	体験者数	253人
	その他	利用者数	2,012人
ふれあいスポーツ広場		利用者数	4,160人
合計			9,049人

成果・課題

○陶芸、染色実習室、展示室、会議室及びスポーツ広場の利用提供並びに各種講座及び教室を実施することで、市民の生きがいづくり及び健康増進に寄与することができた。
○施設の老朽化が進行する中、施設所有者である京都府等と今後の適切な維持管理や運営の在り方を検討・協議する必要がある。

予算科目		本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
款	06 農林水産業費	7,146千円	7,478千円	332千円	95.5 %		
項	01 農業費				(参考)当初予算額	課	生涯学習課
目	02 農業総務費				6,530千円		
事業	03 ｱｸﾞﾘｾﾝﾀｰ管理運営事業						

基本計画	02 6次産業化・ブランド化で農林業を振興

主な財源		
使用料	ｱｸﾞﾘｾﾝﾀｰ使用料	1,023千円
負担金	ｱｸﾞﾘｾﾝﾀｰ使用料光熱水費等負担金	107千円

目的

施設の維持管理及び運営を行い、農業・農村の活性化及び地域住民の福祉・健康増進に寄与する。

主要な事務・事業の概要

地域農林業の振興、生涯学習活動の推進及び地域福祉の増進が図れるよう、施設の維持管理を行った。

○施設管理委託 3,000千円
施設清掃、休日・夜間管理、舞台吊物機構保守点検、移動観覧席保守点検
空調設備保守点検、自動ドア保守点検、防虫管理、消防設備点検、特定建
建築物建築設備等定期点検

○施設修繕料 977千円
多目的ホール冷暖房設備、多目的トイレ便座

○燃料費 784千円

○光熱水費 2,229千円
電気、水道、下水道、ガス

○事務費 156千円
消耗品、申請書印刷、テレビ受信料、火災保険料

〈利用状況〉

区分	利用回数	利用人数
農業技術研修室	327回	2,213人
視聴覚教育室	372回	4,006人
地域活性化研修室（和室）	203回	2,042人
多目的ホール（エントランス含む）	251回	11,952人
調理加工実習室	20回	223人
合計	1,173回	20,436人

成果・課題

○新型コロナウイルス感染予防のための自粛も少しづつ緩和される中、農林業の振興にかかる研修会・講演会をはじめ、生涯学習や福祉など幅広い分野で施設活用ができた。
○建築後25年以上が経過する中で、設備や機材の老朽化が進行しており、計画的な改修及び適切な維持管理を行う必要がある。

予算科目		本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率		
款	10 教育費	1,170千円	1,197千円	27千円	97.7 %	部	教育委員会事務局
項	04 社会教育費				(参考)当初予算額	課	生涯学習課
目	06 社会教育施設費				1,219千円		
事業	03 たちばな会館管理運営事業						

基本計画	27 多様な学びを支援する社会教育の充実
目的	橘地区における生涯学習及びコミュニティ活動の拠点として当該施設を管理運営し、地域住民に各種活動の場を提供するとともに、施設の利用の促進を図る。
主な財源	諸収入　たちばな会館光熱水費負担金　304千円

主要な事務・事業の概要

○施設維持管理費　1,170千円
- ・需用費（消耗品費、燃料費、光熱水費、修繕料）　614千円
- ・役務費（通信運搬費、火災保険料）　67千円
- ・委託料（施設管理委託料、消防設備等保守点検委託料）　489千円

<利用状況>

区　分	利用回数	延べ利用者数
会議室	34回	252人
大会議室	64回	548人
料理実習室	14回	26人
和室1	71回	503人
和室2		
多目的ホール	194回	1,532人
合　計	377回	2,861人

成果・課題

○地域の学習活動及びコミュニティ活動の拠点施設として適正に維持管理することで、施設を活用した効果的な地域活動を促進することができた。
○かねてより検討している施設の管理方法などの見直しについては、引き続き、地元の意向を聞きながら、検討を進めていく必要がある。

予算科目		本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率		
款	10 教育費	1,364千円	1,403千円	39千円	97.2 %	部	教育委員会事務局
項	04 社会教育費				(参考)当初予算額	課	生涯学習課
目	06 社会教育施設費				1,403千円		
事業	04 網野教育会館管理運営事業						

基本計画	27 多様な学びを支援する社会教育の充実
目的	教育及び地域の文化活動・生涯学習の拠点として当該施設を管理運営し、地域住民に各種活動の場を提供するとともに、施設の利用の促進を図る。
主な財源	

主要な事務・事業の概要

○施設維持管理費　1,364千円
- ・需用費（消耗品費、燃料費、光熱水費、修繕料）　623千円
- ・役務費（通信運搬費、火災保険料等）　54千円
- ・委託料（施設管理委託料、浄化槽維持管理委託料、消防設備等保守点検委託料、防火対象物定期点検報告業務委託料）　647千円
- ・使用料及び賃借料（テレビ受信料）　14千円
- ・原材料費　9千円
- ・備品購入費（掃除機1台）　17千円

<利用状況>

区　分	利用回数	延べ利用者数
1階和室	105回	979人
料理実習室	3回	33人
講義室	67回	283人
2階和室	1回	30人
大ホール	277回	2,647人
全　館	6回	1,000人
合　計	459回	4,972人

成果・課題

○人権学習や地域の拠点施設として適正に維持管理することで、施設を活用した効果的な学習及び地域活動を促進することができた。
○かねてより検討している施設の管理方法などの見直しについては、引き続き、地元の意向を聞きながら、検討を進めていく必要がある。

＜様式2＞

京丹後市教育振興計画

施策評価・進捗管理調書（内部評価結果）

担当課	担当課長
文化財保存活用課	村田　雅之
生涯学習課	安達　純

重点目標	6	歴史・文化芸術を活かし、豊かな感性と郷土への愛着と誇りを育みます
基本的方針	学校・地域の連携により、京丹後市の歴史・文化等を学ぶ「丹後学」を進めるなど、子どもたちのふるさとへの愛着と誇りを育みます。また、市内の豊富な歴史文化資源の保護・活用に取り組み、資料館施設の整備充実と併せて、歴史文化について深い理解と関心を持つ人材の育成・活用を進めます。 また、市民や団体による主体的な文化芸術活動等を推進することにより、文化の薫り高いまちづくりに寄与します。	

1. 施策の方向性　PLAN

1. 豊かな歴史文化等を学習する機会の充実	①京丹後市の歴史・文化・自然等を活用した学習を充実するため、小中一貫教育による「丹後学」を積極的に展開します。特に、世界ジオパークに認定された山陰海岸ジオパークの地質遺産を活用し、小学生を対象にフィールド学習を実施します。 ②子どもたちが地域の人々の仕事や生き方にふれることは、地域を再発見することにつながります。学校支援ボランティアや丹後の歴史に精通した京丹後史博士等を活用し、地域の人々が学校園の教育活動を積極的に支援する体制を拡充します。 ③文化財セミナーや京丹後史博士育成講座、文化財の見学等、市民を対象とした歴史・文化の学習機会を充実します。また、京丹後史博士等の人材活用を図り歴史文化財の普及啓発に努めます。
2. 地域の文化財の総合的な保存と活用	①市内の貴重な歴史・文化等を保護し後世に伝えるため、文化財の管理や建造物等の修繕、郷土芸能の道具の更新、映像記録作成等を通して文化財の保全と活用を図り、伝統芸能を継承していきます。 ②京丹後市史編さん事業や発掘調査等の文化財調査での成果や刊行物を基に、郷土の文化財を活用し市内外の人々の理解を深める活動を進め、地域づくりに活かします。 ③京丹後市ホームページのデジタルミュージアム、文化財ライブラリーなどインターネット環境を活用して、丹後の優れた文化財、調査成果について発信していきます。 ④古代丹後を代表する網野銚子山古墳、赤坂今井墳墓等の史跡をはじめ、地域文化財の総合的な保存と活用を進めることで郷土への誇りと愛着を培います。併せて文化財保存活用地域計画に基づき、丹後の輝かしい資産を観光や地域振興に積極的に活かします。
3. 資料館施設等の整備充実	①市内の資料館施設で郷土の歴史や文化財の展示会を開催し、市民や市外の人々に、巨大古墳に象徴される古代丹後の輝かしい歴史や、それ以降の丹後の歴史、丹後ちりめん、文化財や鳴き砂、ジオパーク等について理解してもらうための普及啓発を図ります。 ②児童生徒を対象とした社会科学習、郷土学習を進めます。 ③郷土の歴史や文化財の調査を進め特別展示、企画展を開催するとともに貴重な資料を保管し後世に伝えます。 ④資料館施設の整備充実を図り、市内外の人々が歴史や地域の文化財への関心を高める活動を推進します。
4. 文化芸術活動の推進	①「京丹後市文化芸術振興計画」に基づき、文化芸術に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、関係機関及び団体と連携し、地域の特色を生かした文化事業を行うとともに、市民の自発的かつ日常的な文化芸術活動を支援します。 ②市民の豊かな心を育むため、丹後文化会館など関係施設を活用して、市民が優れた文化芸術に親しむ機会を充実させるとともに、丹後文化会館の改修に向け京都府に対し要望活動を進めます。

【参考】施策に関連するその他の計画

計画名称	計画概要	策定年月	計画期間	備考
第2次京丹後市総合計画	市の目指す基本理念、目標、将来像などを示した「基本構想」と、その構想を実現するための各種施策を総合的、計画的に体系化した「基本計画」	平成27年3月	平成27年度～令和6年度	
京丹後市文化財マスタープラン	市内に所在する多岐にわたる文化財を適切に保護し、その中から特に学術的に重要で、まちづくりの観点からも価値が高いと判断される史跡等文化財に対して、保存及び活用整備をすすめるための方向性を示すもの	平成18年10月	計画期間の定めなし	
国史跡網野銚子山古墳整備基本計画	「丹後王国」を代表する国史跡網野銚子山古墳に関して、京丹後市史跡整備検討委員会を組織して専門的な立場、地元の立場からの検討を加えて基本計画を策定した	平成23年3月	当面の計画として概ね6年間	当面整備計画として概ね6年の計画も策定
京丹後市文化芸術振興計画	市民が主体となって文化芸術活動に取り組み、楽しみを感じられる文化芸術のまちづくりを総合的かつ計画的に推進するために策定	令和5年3月	令和5年度～令和14年度	
京丹後市文化財保存活用地域計画	「丹後半島」における多彩な交流・交易、人々の暮らしが生み出した歴史文化や文化財を「光」ととらえ、「光」を未来につなぐ誇りあるまちづくりを進める指針とするもの	令和4年12月	令和5年度～令和9年度	

2. 主な取組と構成事務事業一覧

PLAN　DO　※各事業の成果・課題については、別紙決算附属資料参照　CHECK　ACT

1. 豊かな歴史文化等を学習する機会の充実

主な取り組み

① 京丹後市の歴史・文化・自然等を活用した学習を充実するため、小中一貫教育による「丹後学」を積極的に展開します。特に、世界ジオパークに認定された山陰海岸ジオパークの地質遺産を活用し、小学生を対象にフィールド学習を実施します。

② 子どもたちが地域の人々の仕事や生き方にふれることは、地域を再発見することにつながります。学校支援ボランティアや丹後の歴史に精通した京丹後史博士等を活用し、地域の人々が学校園の教育活動を積極的に支援する体制を拡充します。

③ 文化財セミナーや京丹後史博士育成講座、文化財の見学等、市民を対象とした歴史・文化の学習機会を充実します。また、京丹後史博士等の人材活用を図り歴史文化財の普及啓発に努めます。

1. 豊かな歴史文化等を学習する機会の充実	担当課	決算額（単位：千円） R3決算額	R4決算額	R5予算額	事務の改善 評価を踏まえた今後の方向性
1 文化財保護啓発事業 市内に数多く残されている文化財や調査成果などを市民などに公開することで郷土の歴史や文化財について学ぶことのできる機会を提供し、その認識を高める。	文化財保護課				統合（整理）

2. 地域の文化財の総合的な保存と活用

主な取り組み

① 市内の貴重な歴史・文化等を保護し後世に伝えるため、文化財の管理や建造物等の修繕、郷土芸能の道具の更新、映像記録作成等を通して文化財の保全と活用を図り、伝統芸能を継承していきます。

② 京丹後市史編さん事業や発掘調査等の文化財調査での成果や刊行物を基に、郷土の文化財を活用し市内外の人々の理解を深める活動を進め、地域づくりに活かします。

③ 京丹後市ホームページのデジタルミュージアム、文化財ライブラリーなどインターネット環境を活用して、丹後の優れた文化財、調査成果について発信していきます。

④ 古代丹後を代表する網野銚子山古墳、赤坂今井墳墓等の史跡をはじめ、地域文化財の総合的な保存と活用を進めることで郷土への誇りと愛着を培います。併せて文化財保存活用地域計画を策定し、丹後の輝かしい資産を観光や地域振興に積極的に活かします。

2. 地域の文化財の総合的な保存と活用	担当課	決算額（単位：千円） R3決算額	R4決算額	R5予算額	事務の改善 評価を踏まえた今後の方向性
2 指定文化財等管理事業 文化財の修理などの保全事業に対して補助金を交付することにより、貴重な文化財を守り次世代に引き継ぐ。また、指定文化財及びそれに関連する施設の草刈や補修等の維持管理を行い、指定文化財の適切な管理活用を図る。	文化財保護課	4,546	6,737	10,953	統合（整理）
3 遺跡整備事業 丹後の特色と歴史を物語る重要な文化財の環境整備を推進し、教育・観光・地域づくりの資源などへ有効に活用する。	文化財保護課	46,150	47,561	53,884	拡大
4 遺跡発掘調査等事業 発掘調査等により、市内の遺跡を効果的に保護するための資料を得るとともに、開発等により現地保存の困難な遺跡の記録保存を図り、文化財の保護活用につなげる。	文化財保護課	6,606	5,253	4,458	現状維持
5 地域文化財総合活用推進事業 市内に数多く残る文化財について、指針となる文化財保存活用地域計画の策定を行うことで、市の歴史文化の特色や課題を明らかにするとともに、その課題解決に向け教育、観光、地域づくり等の各分野が地域資源として有効活用につなげる。	文化財保護課	6,565	4,860	5,422	現状維持
6 地域文化財総合活用推進事業【繰越】 市内に数多く残る文化財について、指針となる文化財保存活用地域計画の策定を行うことで、市の歴史文化の特色や課題を明らかにするとともに、その課題解決に向け教育、観光、地域づくり等の各分野が地域資源として有効活用につなげる。	文化財保護課	－	692	－	

3. 資料館施設等の整備充実

主な取り組み

① 市内の資料館施設で郷土の歴史や文化財の展示会を開催し、市民や市外の人々に、巨大古墳に象徴される古代丹後の輝かしい歴史や、それ以降の丹後の歴史、丹後ちりめん、文化財や鳴き砂、ジオパーク等について理解してもらうための普及啓発を図ります。

② 児童生徒を対象とした社会科学習、郷土学習を進めます。

③ 郷土の歴史や文化財の調査を進め特別展示、企画展を開催するとともに貴重な資料を保管し後世に伝えます。

④ 資料館施設の整備充実を図り、市内外の人々が歴史や地域の文化財への関心を高める活動を推進します。

3. 資料館施設等の整備充実	担当課	決算額（単位：千円） R3決算額	R4決算額	R5予算額	事務の改善 評価を踏まえた今後の方向性
7 郷土資料館管理運営事業 民俗資料等の収蔵、調査並びに公開施設である郷土資料館の維持管理を行い、郷土の歴史や文化遺産に対する住民の関心を高める。	文化財保護課	29,484	2,756	2,161	現状維持
8 古代の里資料館管理運営事業 考古資料・美術工芸品等の収蔵・調査・公開施設である丹後古代の里資料館の維持管理を行い、文化にふれあい、歴史を学ぶ機会を提供するとともに、郷土の文化遺産に関しての住民の関心を高める。	文化財保護課	11,412	13,246	13,932	現状維持
9 資料館等指定管理施設運営事業 琴引浜鳴き砂文化館の維持管理を行い、琴引浜の鳴き砂の保全及び保護啓発活動、自然環境学習の援助並びに促進を図る。	文化財保護課	8,977	8,770	10,195	現状維持

4. 文化芸術活動の推進	決算額（単位：千円）			事務の改善
主な取り組み ↓ 事務事業名称・事業内容（実績） 担当課	R3決算額	R4決算額	R5予算額	評価を踏まえた今後の方向性
① 文化芸術に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、関係機関及び団体と連携し、地域の特色を生かした文化事業を行うとともに、市民の自発的かつ日常的な文化芸術活動を支援します。 ② 市民の豊かな心を育むため、丹後文化会館など関係施設を活用して、市民が優れた文化芸術に親しむ機会を充実させるとともに、丹後文化会館の改修に向け京都府に対し要望活動を進めます。				
10 文化芸術事業 生涯学習課 市民の豊かな心を育み、生きがいのある生活を送り、地域の生活文化を育て、ゆとりと潤いのある地域づくりを推進するため、各種文化芸術活動を支援する。また、文化芸術振興審議会を設置し、文化芸術振興計画の策定に向け、調査・審議する。	35,645	33,906	37,020	現状維持

上記の「主な取り組み」への位置付けが困難な事業	決算額（単位：千円）			事務の改善
事務事業名称・事業内容（実績） 担当課	R3決算額	R4決算額	R5予算額	評価を踏まえた今後の方向性
11 文化財保護審議会委員設置事業 文化財保護課 文化財の指定・解除等の諮問機関である文化財保護審議会で、文化財の保全及び活用について調査・審議を行うことで、市の文化財の保全や活用に資する。	171	185	213	現状維持
12 文化財保護一般経費 文化財保護課 文化財保管施設の維持管理及び各種文化財保護関係団体の活動を推進し、文化財の保護と活用を図る。	216	345	2,948	現状維持
計	149,772	124,311	141,186	

3. 教育振興計画で掲げている主な目標指標

基本的方針	学校・地域の連携により、京丹後市の歴史・文化等を学ぶ「丹後学」を進めるなど、子どもたちのふるさとへの愛着と誇りを育みます。また、市内の豊富な歴史文化資源の保護・活用に取り組み、資料館施設の整備充実と併せて、歴史文化について深い理解と関心を持つ人材の育成・活用を進めます。 また、市民や団体による主体的な文化芸術活動等を推進することにより、文化の薫り高いまちづくりに寄与します。

主な目標指標	目標指標	単位	計画作成時	年度	実績値（現状）	年度	目標値	年度
	文化財セミナー、京丹後史博士講座等の文化財事業参加者数	人	1,468（5事業、17講座）	H25	560	R4	1,700	R6
	資料館、文化館入館者数	人	13,808（3施設）	H25	10,465	R4	18,000	R6
	史跡整備	遺跡	6	H25	7	R4	8	R6
	京丹後史博士の認定者数	人	－		66	R4	120	R6
	文化協会加盟サークル数	団体	170	H25	117	R4	200	R6
	文化芸術事業の開催回数	回	－	R1	49	R4	100	R6
	京都府丹後文化会館利用者数	人	－	R1	21,774	R4	42,000	R6

4. 施策の進捗状況の評価と今後の課題[基本的方針の達成に向け、施策がどの程度進捗しているか]

CHECK ACT

進捗状況区分	評価	令和4年度成果と今後の課題
◎　予定以上に進んでいる ○　予定どおり進んでいる ▲　少し遅れている ×　大幅に遅れている	▲	**《文化財セミナー、京丹後史博士講座等の文化財事業参加者数》** 新型コロナウイルス感染症の関係で、京丹後史博士育成講座は休止し、京丹後市文化財セミナーは2回開催した(65名)。このほか、外部からの出前講座等の対応を行った(18回、495名)。 今後は、対策を講じながら、セミナーや講座を通常通り開催し、目標値に近づけるようにしたい。 **《資料館、文化館入館者数》** 新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言による臨時休館は行わなかったが、学校関係の利用が減少したたこともあり、前年度実績と比べ入館者は横ばい。コロナ前の水準には達していない。 今後は、各館ともに対策を講じながら事業実施を行い、集客増につなげていきたい。 **《史跡整備》** 網野銚子山古墳整備事業は、京丹後市史跡整備検討委員会の指導を得ながら平成29年度には環境整備基本設計を実施し、平成30年度より整備工事を進めている。 令和4年度は、検討委員会の指導を得ながら墳丘樹木の整理伐採、前方部の墳丘復元、周濠整備、階段整備を行った。令和5年度以降も引き続き、環境整備事業を進め、令和6年度には完成予定である。 **《京丹後史博士の認定者数》** 令和4年度は講座の開催を見合わせたため、認定者数に変化がなかった。5年度は開催を予定している。 **《文化協会加盟サークル数》** 新型コロナウイルス感染拡大及び高齢化のため多くの団体が脱退した。各加盟団体が実施する教室や大会、市協会が実施する総合文化祭、サークル体験会を通じて、市民へ芸術鑑賞機会を提供することができた。今後も、市民が文化力を高め、加盟サークル数増加にもつながるよう協会を支援していく。 **《文化芸術事業の開催回数》** 本物の舞台芸術体験事業を小中学校で行い、団体支援として文化協会が行う各町域での文化祭や総合作品展、サークル体験会、ケーブルテレビ等を活用した団体PRのほか、丹後文化事業団が行う事業支援等を実施し、市民が文化芸術に触れる機会や場所の提供ができた。 **《京都府丹後文化会館利用者数》** 新型コロナウイルス感染症による事業自粛緩和の動きにより、概ね事業が予定通り実施できるようになった。近隣市町と連携し丹後地域全体での利用拡大計画を立てる必要がある。

5. 今後の施策展開の考え方(令和5年～令和6年度での主な取組)

ACT

区分	No.	具 体 的 内 容
施策展開の考え方	1	令和4年度で策定した京丹後市文化財保存活用地域計画に基づき、庁内や関係団体との連携を図り、多面的な文化財の保存・活用を進める。また文化財セミナー等の講演会、資料館施設での様々な展示、体験事業を開催するとともに、出前講座への積極的な対応も行い、学習する機会の充実を図る。
	2	網野銚子山古墳の整備事業では、墳丘の補修、園路整備、周濠整備のほか、進入道路、駐車場等の整備を行う予定である。これにより、市民や外からの観光客に、日本海側最大の前方後円墳の姿を示し、地域学習や観光スポットとしての活用をはかる。
	3	丹後古代の里資料館、郷土資料館、琴引浜鳴き砂文化館を適切に維持管理するとともに、それぞれ収蔵資料の内容から機能分化し、市民や外からの観光客に、地域学習や観光スポットとしての活用を図る。

予算科目		本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率		
款	10 教育費	6,737千円	6,788千円	51千円	99.2 %	部	教育委員会事務局
項	04 社会教育費				(参考)当初予算額 6,621千円	課	文化財保存活用課
目	07 文化財保護費						
事業	02 指定文化財等管理事業						

基本計画	28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進
目的	文化財の修理などの保全事業に対して補助金を交付することにより、貴重な文化財を守り次世代に引き継ぐ。また、指定文化財及びそれに関連する施設の草刈や補修等の維持管理を行い、指定文化財の適切な管理活用を図る。

主な財源

国補	国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金	1,348千円

主要な事務・事業の概要

○京丹後市指定文化財等補助金　12件　2,390千円

（内訳）・国、府指定登録文化財補助金該当分　5件　1,569千円

・京都府社寺等文化資料保全補助金該当分　7件　821千円

（京丹後市指定文化財等のうち補助要件を満たすもの）

神社・寺院建物の修理、覆屋・収蔵庫の修理、民俗芸能の道具の修理・新調、史跡の修理などを支援。

※参考　令和3年度実績　補助件数　21件

補助金額　2,389千円

○湯舟坂2号墳出土品抜本強化修理事業　2,075千円

国指定重要文化財の湯舟坂2号墳出土品のうち破損等が認められる鉄製品等を保存処理し計265点分の安定台を製作する。4か年計画の1年目。

○史跡活用及び文化財保存活用計画に関する先進地視察経費　138千円

史跡整備、博物館等活用事例を視察（群馬県前橋市、高崎市、安中市）

○史跡等草刈・環境美化委託（16か所）　1,037千円

神明山古墳、函石浜遺跡、赤坂今井墳墓、産土山古墳、郷村断層、旧口大野村役場庁舎、湯舟坂2号墳、竹野神社環境保全地区、高山12号墳、遠處遺跡、黒部銚子山古墳、震災記念館用地、大谷古墳、浜詰遺跡、細川ガラシャ夫人隠棲地、岡1号墳

○コウノトリモニタリング事業　427千円

国指定特別天然記念物・コウノトリが市内3か所で営巣したため、モニタリング監視員を置き、観察・記録を行うとともに、巣周辺の立ち入り制限などの保護活動を行った。（期間：令和4年4月4日～6月24日）

○指定文化財看板等修繕　584千円

・説明板・施設等の修繕、工事費（10か所）　581千円

赤坂今井墳墓・藤社神社・穴文殊・ニゴレ古墳・京極家墓所・深田部神社の説明板修繕、生野内断層小屋・網野収蔵庫・難湖古墳小屋の修繕、ふるさと大宮を歩く看板撤去

・看板土地借上料（3か所）　3千円

○指定文化財関連施設管理経費　86千円

・丹後震災記念館等の指定文化財施設の維持管理経費等　60千円

・火災保険料（旧口大野村役場庁舎、郷村断層ほか3件）　26千円

成果・課題

○市内に数多く残る文化財の保全のために修理等への補助金を交付し、文化財所有者等の負担軽減と貴重な文化財の保全を図ることができた。
○コウノトリの営巣に伴い必要な保護活動を行い、コウノトリの個体保護に寄与することができた。
○史跡や周辺施設等の環境整備を行うことにより、文化財の保全が図られ、文化財見学等の利用促進につながった。
○文化財案内看板等の計画的な整備につとめ、来訪者の利便性向上と文化財の保護啓発を図る必要がある。

予算科目		本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率		
款	10 教育費	47,561千円	47,771千円	210千円	99.5 %	部	教育委員会事務局
項	04 社会教育費				(参考)当初予算額 49,293千円	課	文化財保存活用課
目	07 文化財保護費						
事業	03 遺跡整備事業						

基本計画	28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進
目的	丹後の特色と歴史を物語る重要な文化財の環境整備を推進し、教育・観光・地域づくりの資源などへ有効に活用する。

主な財源

国補	国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金（1/2）	21,000千円
市債	遺跡整備事業債（過疎対策債）	25,600千円

主要な事務・事業の概要

国史跡網野銚子山古墳について、平成23年度に策定した整備基本計画に基づき、史跡の保存を図りつつ整備工事を行った。整備工事は、条例に基づき設置した京丹後市史跡整備検討委員会、文化庁等関係機関の指導を受け実施した。（令和6年度完成予定）

○網野銚子山古墳整備事業費　47,561千円

・報酬　史跡整備検討委員会委員報酬　72千円

（2回開催、委員15人）

・旅費　史跡整備検討委員会委員参集旅費等　138千円

・需用費　消耗品費　42千円

・委託料　実施設計委託料　3,333千円

工事監理委託料　1,375千円

維持管理草刈委託料　714千円

・工事請負費　環境整備工事費　41,887千円

【公園工事】
墳丘部の整理伐採50本、墳丘前方部の墳丘復元盛土工300㎥、周溝表示工（新設）1250㎡・表面舗装1270㎡等。
【道路改良工事】
市道銚子山線の一部アスファルト舗装55.2m

成果・課題

○網野銚子山古墳については、史跡整備検討委員会の指導を受け、古墳の保存・活用を図るための環境整備工事の一部を遂行できた。令和4年度までで墳丘復元盛土工をほぼ完了できた。
○市道銚子山線の史跡地内部分について付け替え、舗装工事を行った。これにより近隣住民及び史跡を訪れる方々の利便性を高めることができた。

予算科目		本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率		
款	10 教育費	5,253千円	5,268千円	15千円	99.7 %	部	教育委員会事務局
項	04 社会教育費				(参考)当初予算額 5,150千円	課	文化財保存活用課
目	07 文化財保護費						
事業	04 遺跡発掘調査等事業						

基本計画	28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進
目的	発掘調査等により、市内の遺跡を効果的に保護するための資料を得るとともに、開発等により現地保存の困難な遺跡の記録保存を図り、文化財の保護活用につなげる。

主な財源		
国補	国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金（1/2）	2,350千円
府補	埋蔵文化財緊急発掘調査費補助金（1/4）	1,175千円

主要な事務・事業の概要

丹後町徳光に所在する奥山遺跡・長田遺跡・石原遺跡・川向遺跡の発掘調査及び大宮町奥大野に所在する裏陰遺跡の発掘調査を実施し、報告書を刊行した。また、網野銚子山古墳（網野町網野）発掘調査の報告書刊行に向け、整理作業を行った。

○会計年度任用職員任用経費　3,228千円

（発掘調査補助員・整理員・作業員9人）

- 報酬　2,838千円
- 期末手当　100千円
- 共済費（労災保険料、雇用保険料）　135千円
- 費用弁償　155千円

○発掘調査等経費　2,025千円

- 旅費（協議旅費、費用弁償）　301千円
- 需用費（消耗品、発電機燃料代、印刷製本費等）　681千円
- 役務費（し尿汲取手数料）　2千円
- 委託料（網野銚子山古墳に関する遺物実測図作成委託料）　498千円
- 使用賃借料（重機・機械器具・仮設トイレ借上料・施設使用料等）　543千円

＜調査概要＞

- 奥山・長田・石原・川向遺跡（現地調査　令和4年9月27日～11月10日）
  府営ほ場整備計画に先立ち、遺跡の広がりを確認するため15か所で調査を行った。ほぼ全てのトレンチで過去の造成土が確認され、明確な遺構の存在、遺物の出土はなかった。
- 裏陰（うらかげ）遺跡（現地調査　令和4年11月30日～12月13日）
  農地形状変更の計画に先立ち、範囲確認調査を実施した。江戸時代以降のものと推定される杭列の他は顕著な遺構・遺物は見られなかった。
- 網野銚子山古墳（整理作業のみ）
  平成28年度～令和2年度に実施した発掘調査による出土遺物の整理や、遺物実測図の作成を行った。（令和5年度報告書発刊予定）

成果・課題

○奥山遺跡ほかの調査では、過去の造成が大規模に行われていることが確認できた一方、遺構の広がりは限定的である可能性が高いものとなった。
○裏陰遺跡の調査では、江戸時代以降のものと思われる杭列以外は確認できず、遺構の広がりの状況を推測する手がかりを得た。
○網野銚子山古墳では、遺物の整理や遺物実測図作成などの作業を進め、報告書発刊の準備を進めることができた。

予算科目		本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率		
款	10 教育費	4,860千円	4,996千円	136千円	97.2 %	部	教育委員会事務局
項	04 社会教育費				(参考)当初予算額 5,633千円	課	文化財保存活用課
目	07 文化財保護費						
事業	05 地域文化財総合活用推進事業						

基本計画	28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進
目的	市内に数多く残る文化財について、指針となる文化財保存活用地域計画の策定を行うことで、市の歴史文化の特色や課題を明らかにするとともに、その課題解決に向け教育、観光、地域づくり等の各分野が地域資源として有効活用につなげる。

主な財源		
国補	文化芸術振興費補助金	3,169千円

主要な事務・事業の概要

文化財関係者及び、商工・観光関係者等が参画した策定協議会及び保存分科会を開催し、文化財保存活用地域計画を策定した。

○文化財保存活用地域計画策定協議会開催経費（委員15人）　147千円

- 協議会委員謝金　半日×2回　（4,000円×延べ25人）　100千円
- 委員費用弁償　47千円

○地域計画策定協議会保存分科会開催経費（委員3人）　24千円

- 分科会委員謝金　半日×1回　（4,000円×3人）　12千円
- 分科会旅費　12千円

○計画作成等に係る協議費用　46千円

- 文化庁係官現地指導費用弁償　21千円
- 文化庁協議旅費　25千円

○計画策定委託料　3,487千円

- 文化財保存活用地域計画策定支援委託料

○計画認定を受けての情報発信　1,156千円

- 計画認定記念シンポジウム謝金　194千円
  令和5年3月18日 峰山総合福祉センター 参加者数：40人
- 印刷製本費（冊子・概要版・シンポジウムチラシ）　962千円
  20,500枚

成果・課題

○協議会及び分科会を開催し、委員の意見を聞きながら、計画作成を進め、令和4年12月16日に文化庁の認定を受けた。
○今後、本計画を実行・推進していくにあたり、その進捗管理を行う推進協議会の設立や、文化財の保存活用を担う人材の育成、安定的な財源の確保等が重要な課題である。

予算科目		本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率		
款	10 教育費	692千円	692千円	0千円	100.0 %	部	教育委員会事務局
項	04 社会教育費				(参考)繰越予算額 692千円	課	文化財保存活用課
目	07 文化財保護費						
事業	05 地域文化財総合活用推進事業（繰越）						

基本計画	28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進
目的	市内に数多く残る文化財について、指針となる文化財保存活用地域計画の策定を行うことで、市の歴史文化の特色や課題を明らかにするとともに、その課題解決に向け教育、観光、地域づくり等の各分野が地域資源として有効活用につなげる。
主な財源	
主要な事務・事業の概要	文化財関係者及び、商工・観光関係者等が参画した策定協議会及び保存分科会を開催し、文化財保存活用地域計画の作成を進めた。 ○計画策定委託料 692千円 ・文化財保存活用地域計画策定支援委託料
成果・課題	協議会及び分科会を開き、委員の意見を聞きながら、計画作成を進めた。

予算科目		本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率		
款	10 教育費	2,756千円	2,872千円	116千円	95.9 %	部	教育委員会事務局
項	04 社会教育費				(参考)当初予算額 2,696千円	課	文化財保存活用課
目	05 資料館費						
事業	01 郷土資料館管理運営事業						

基本計画	28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進
目的	民俗資料等の収蔵、調査並びに公開施設である郷土資料館の維持管理を行い、郷土の歴史や文化遺産に対する住民の関心を高める。
主な財源	使用料　郷土資料館入館料　31千円
主要な事務・事業の概要	豊富に残る市所蔵の民俗資料、古文書・典籍・書籍等の適切な保管・公開を行った。 ○会計年度任用職員任用経費（資料館業務員1人） 764千円 ・報酬、費用弁償、労災保険料 ○維持管理費 1,992千円 ・維持管理経費（燃料、光熱水費、通信費等） 1,048千円 ・漏水修繕（調査委託料、修繕料） 288千円 ・施設保守管理経費（貯水槽、浄化槽、消防設備） 162千円 ・施設警備委託料 85千円 ・使用賃借料（コピー機借上料、テレビ受信料） 161千円 ・その他事務経費（消耗品） 248千円
成果・課題	○民俗資料・典籍等の公開、4回の企画展の開催、夏休み期間中の小学生を対象とした入館料無料イベント、郷土資料館まつりを実施するなど、文化財の普及啓発を図った。 ○市内小学校の社会科見学の受け入れを行い、実物に触れながら学び、学習効果を高めることができた。 ○常設展示の配置や展示資料の解説内容などを改善していくことが課題である。

【企画展示・イベント】

期　間	タイトル	入館者数
R4.7.23～9.10	夏季企画展「くらしと戦争」	42人
R4.7.21～8.28	夏休み企画（小学生・同伴者入館無料）	27人
R4.10.29～12.10	秋季企画展「むかしの装い」	46人
R4.11.3	郷土資料館まつり	46人
R5.1.7～2.7	冬季企画展「新収蔵品展」	49人
R5.3.4～5.16	春季企画展「こどもの節句展」	95人

【入館者数・推移】

R元	R2	R3	R4
822人	75人	215人	321人

予算科目			本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率		
款	10 教育費		13,246千円	13,668千円	422千円	96.9 %	部	教育委員会事務局
項	04 社会教育費					(参考)当初予算額	課	文化財保存活用課
目	05 資料館費					13,780千円		
事業	02 古代の里資料館管理運営事業							
基本計画	28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進							

目的

考古資料・美術工芸品等の収蔵・調査・公開施設である丹後古代の里資料館の維持管理を行い、文化にふれあい、歴史を学ぶ機会を提供するとともに、郷土の文化遺産に関しての住民の関心を高める。

主な財源

使用料	古代の里資料館入館料	539千円
諸収入	古代の里資料館陶芸教室実習料	91千円
諸収入	古代の里資料館物品販売代金	24千円
諸収入	古代の里資料館書籍販売代金	187千円

主要な事務・事業の概要

考古資料・美術工芸品を適切に保管・公開し、文化財の保護、普及啓発を図った。

○会計年度任用職員任用経費（資料館業務員4人） 8,581千円
・報酬、期末手当、共済費、費用弁償

○維持管理、展示等に関する経費 4,665千円
・維持管理経費（燃料、光熱水費、修繕、通信費等） 2,286千円
・施設保守管理経費（電気設備、浄化槽、消防、伐採） 719千円
・施設警備委託料 78千円
・使用料及び賃借料（コピー機、清掃用具、土地借上げ等） 460千円
・その他事務経費（消耗品、ごみ処理手数料等） 334千円
・展示イベント関係経費（チラシ印刷、図録増刷等） 726千円
・備品購入費（二酸化炭素消火器1台） 62千円

【企画展示】

期　間	タイトル	入館者数
R4.4.29～R4.9.11	企画展示1「海の代官所と太刀宮文書」	1,186人
R4.9.23～R5.2.26	企画展示2「峯山藩と京極家」	925人
R5.3.4～R5.4.23	企画展示3「災害の歴史と記憶を伝える」	298人

【入館者数・推移】

R元	R2	R3	R4
2,821人	1,380人	1,579人	2,454人

成果・課題

○考古・歴史資料の公開により、文化財の普及啓発を図った。
○小中学校の地域学習施設として活用することで、市内小中学生に対して市内の歴史に関する知識を深め、関心を高めることができた。今後もより一層、小中学校の地域学習への活用を図っていく必要がある。
○平成6年の開館から25年以上が経過しており、館内設備の計画的な更新等が今後の検討課題である。

予算科目			本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率		
款	10 教育費		8,770千円	8,770千円	0千円	100.0 %	部	教育委員会事務局
項	04 社会教育費					(参考)当初予算額	課	文化財保存活用課
目	05 資料館費					8,586千円		
事業	03 資料館等指定管理施設運営事業							
基本計画	28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進							

目的

琴引浜鳴き砂文化館の維持管理を行い、琴引浜の鳴き砂の保全及び保護啓発活動、自然環境学習の援助並びに促進を図る。

主な財源

主要な事務・事業の概要

鳴き砂や環境保全の学習施設として設置し、指定管理者制度により、琴引き浜鳴り砂を守る会が管理運営を行った。環境学習のための教育施設であるとともに、山陰海岸ジオパークを紹介する観光施設としても重要な拠点と位置付けている。

○琴引浜鳴き砂文化館指定管理委託料 7,483千円

○使用料及び賃借料 1,287千円
公益財団法人日本ナショナルトラストへの建物賃借料及び土地所有者への駐車場用地賃借料

【入館者数・推移】

R元	R2	R3	R4
9,520人	6,055人	6,443人	7,692人

成果・課題

○各種視察受け入れやジオパーク関連事業、ガイド事業への支援・協力、「丹後学」をはじめとする市内学校の見学対応などを行い、京丹後市を代表する自然系の展示施設としての役割を果たした。
○施設修繕を計画的に実施し、適正な管理運営に努める必要がある。

予算科目		本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率		
款	10 教育費	33,906千円	34,018千円	112千円	99.6 %	部	教育委員会事務局
項	04 社会教育費				(参考)当初予算額 34,428千円	課	生涯学習課
目	02 社会教育推進費						
事業	05 文化芸術事業						

基本計画	28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進
目的	市民の豊かな心を育み、生きがいのある生活を送り、地域の生活文化を育て、ゆとりと潤いのある地域づくりを推進するため、各種文化芸術活動を支援する。また、文化芸術振興審議会を設置し、文化芸術振興計画の策定に向け、調査・審議する。
主な財源	府補　きょうと地域連携交付金（文化芸術事業）　1,000千円 繰入金　韓哲・まちづくり夢基金繰入金　743千円

主要な事務・事業の概要

文化芸術活動団体への支援を行い、市民が優れた文化芸術に触れる機会を提供し、市民による文化芸術活動の充実を図った。

○京都府丹後文化事業団運営補助金　27,000千円

コロナ禍で一部の事業等が中止となったが、映画上映やコンサート、文化祭等の各種公演の実施など、丹後地域における豊かな文化芸術の振興及び普及事業を支援した。
映画上映5回（計1,144人）、コンサート等5公演（計3,095人）などを開催

○京丹後市文化協会運営補助金　3,500千円

・加盟団体135団体

コロナ禍の中、感染対策を講じながら「総合文化祭」として「舞台芸能祭」及び「総合作品展」を開催したほか、支部事業など市民の文化芸術制作の機会や芸術鑑賞、自主的な文化芸術活動を支援した。
R4.5.15　舞台芸能祭（丹後文化会館、来場者延べ500人）
R4.6.11～12 総合作品展（弥栄社会体育館、来場者延べ460人）

○丹後文化芸術祭実行委員会補助金　1,300千円

舞台4事業、展示2事業、セミナー1事業の実施を支援

○京丹後文化のまちづくり推進事業補助金　35千円

閉校になった学校の校歌保存事業（旧倉垣小、旧橋中。旧橋中は音源収録のみ）の実施を支援した。

○おとまち響プロジェクト　743千円

閉校した学校などにあるピアノを修繕・調律し、市内2か所（丹後王国「食のみやこ」、京都府丹後文化会館）に「まちかどピアノ」を設置した。
音楽をはじめ日常的に文化活動を行っている市民の練習や発表の場を創設するとともに、誰もが様々な場面で音楽に触れる機会をつくるため、市内3か所（丹後王国「食のみやこ」、京丹後夢球場、京都府丹後文化会館）に屋外コンセントを設置した。

○文化芸術振興計画策定検討に関する経費　1,328千円

京丹後市文化芸術振興審議会委員報酬、アドバイザー謝金ほか
委員15人、アドバイザー5人、審議会開催回数：3回
視察1回、シンポジウム1回

成果・課題

○優れた文化芸術を鑑賞・体験できる機会の提供及び地域文化活動の普及・振興を推進し、文化芸術活動の充実を図ることができた。
○文化芸術に関する施策を総合的、計画的に推進するため、文化芸術振興審議会を設置し、京丹後市文化芸術振興計画を策定した。
○（公財）京都府丹後文化事業団及び京丹後市文化協会等、各団体の自立運営に向けた支援をしていく必要がある。

予算科目		本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率		
款	10 教育費	185千円	269千円	84千円	68.7 %	部	教育委員会事務局
項	04 社会教育費				(参考)当初予算額 269千円	課	文化財保存活用課
目	07 文化財保護費						
事業	01 文化財保護審議会委員設置事業						

基本計画	28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進
目的	文化財の指定・解除等の諮問機関である文化財保護審議会で、文化財の保全及び活用について調査・審議を行うことで、市の文化財の保全や活用に資する。
主な財源	

主要な事務・事業の概要

○文化財保護審議会の開催経費　82千円

文化財指定、市指定文化財の管理、現状変更に関する事項や、文化財関係事業等を検討するため審議会を開催。（委員定数：10人）

・報酬　半日×2回（4千円×延べ18人）　72千円
・費用弁償　10千円

○両丹文化財保護連絡協議会開催経費　103千円

令和4年度は京丹後市で開催（令和4年11月30日）
場所：アグリセンター大宮
参加者：京都府北部の各市町の文化財に携わる委員及び担当職員
テーマ：「災害と文化財」
「災害の記憶を伝える」、「災害から文化財を守り伝える」という二つの視点から事例発表により情報交換を行った。また、佛教大学名誉教授の植村善博氏に記念講演をいただき知見を深めた。

・報酬　協議会出席：半日×9人（4千円×9人）　36千円
・講師謝金　61千円
・費用弁償　6千円

令和4年度市指定文化財（計5件：カッコ内は所在地）
・常徳寺石造地蔵菩薩立像（丹後町平）
・銅造鰐口（丹後町平）
・坪倉家文書（丹後古代の里資料館寄託）
・森田治郎兵衛墓（峰山町吉原）
・味土野大滝（弥栄町須川）

成果・課題

○審議会において検討を深め、市指定文化財を5件指定することができたことにより文化財保護を図る一助となった。
○両丹文化財保護連絡協議会を開催し、文化財を取り巻く課題について共有することにより連携を深める一助となった。

予算科目			本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率		
款	10 教育費		345千円	357千円	12千円	96.6 %	部	教育委員会事務局
項	04 社会教育費					(参考)当初予算額	課	文化財保存活用課
目	07 文化財保護費					357千円		
事業	50 文化財保護一般経費							
基本計画	28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進		主な財源					

目的

文化財保管施設の維持管理及び各種文化財保護関係団体の活動を推進し、文化財の保護と活用を図る。

主要な事務・事業の概要

○文化財収蔵施設維持管理費（5か所） 145千円

資料館以外で所管している文化財収蔵施設に係る維持管理費

十楽収蔵庫（久美浜町十楽）　網野出土遺物収蔵庫（網野町網野）

旧成路分校（峰山町鱒留）　旧三重保育所（大宮町三重）

高嶋寮（丹後町上野）

- 消耗品費 52千円
- 光熱水費 36千円
- 修繕料 24千円
- 火災保険料 33千円

○文化財関係加盟団体経費 70千円

- 全国史跡整備市町村協議会・近畿地区協議会 50千円
- 全国鳴き砂ネットワーク 20千円

○会議出席経費 130千円

全国史跡整備市町村協議会臨時大会出席旅費（担当職員1人）

- 開催日：令和4年11月15日　東京都
- 内　容：陳情活動

全国鳴き砂サミット出席旅費（代表幹事として出席・1人）

- 開催日：令和4年11月12日～13日　福島県いわき市

成果・課題

文化財保護事務及び所管施設の維持管理を適切に実施し、文化財の保護と活用を図ることができた。

＜様式2＞

京丹後市教育振興計画

施策評価・進捗管理調書（内部評価結果）

担当課	担当課長
学校教育課	川村　義輝
生涯学習課	安達　純

重点目標	7	たくましく健やかな体づくりと生涯スポーツを推進します

基本的方針	子どもたちのスポーツに親しむ習慣の確立や体力づくりに取り組み、たくましく健やかな身体を育みます。また、子どもから高齢者まで、だれもが豊かで充実した生活を送ることができるよう、市民が生涯にわたってスポーツに取り組むことのできる環境づくりを進めます。 食育は、生きるうえでの基本であり、知育、徳育及び体育の基礎となるものであることから、子どもたちが、自然の恩恵や「食」に関わる人々への感謝、理解を深めるとともに「食」に関する適切な判断力を身に付けることを目指します。

1．施策の方向性　PLAN

1．健康な体づくり	①子どもの基本的な生活習慣の確立のため、学校園が連携し、発達段階に応じた系統的な指導を行うとともに、その大切さについて家庭への啓発に努めます。 ②喫煙・薬物乱用などの防止、各種感染症や生活習慣病の予防等に関する指導、性に関する指導について、子どもの発達段階に応じた系統的な指導を行います。 ③児童生徒の体力・運動能力の実態や課題を的確に把握・分析し、小中学校の教育活動全体を通じて一貫した体育指導を進めます。 ④学校園、家庭及び地域が連携して子どもの運動・スポーツ環境の充実を図るため、学校体育施設の開放や学校支援ボランティア等を活用し、子どもの体力・運動能力の向上につながる取組みを進めます。
2．食育の推進	①幼児、児童生徒が食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができるよう、給食を生きた教材として活用するとともに、横断的な食育指導の充実を図ります。 ②地域の伝統的な食文化への理解を深め、郷土に関心を寄せる心を育むため、給食の献立に地元食材や郷土食を積極的に取り入れます。 ③体験学習や調理実習等の活動を通じて、「食」への感謝の気持ちを育むため、家庭や地域、地元生産者等と連携した食育の取組みを一層推進します。
3．地域スポーツ活動の推進	①スポーツ推進委員をはじめ公民館、PTA等と連携し、各種ニュースポーツ教室等の実施や各種スポーツ行事への協力等、スポーツの普及を図ります。 ②市民の多様なスポーツニーズに対応した活動を充実するため、体育協会等の活動及び組織強化を支援します。 ③市民の健康づくりとして、年齢や体力、目的に応じた日常的なスポーツ活動を促進するため、市民総参加型スポーツイベント「京丹後チャレンジデー」を開催するなど、効果的なスポーツ情報と機会の提供を進めます。 ④障害のある人や配慮が必要な様々な人が、障害の種類や程度に応じて、身近な地域で皆と一緒になって楽しめるニュースポーツの普及推進に努めます。
4．競技力の向上	①学校体育団体と連携し、子どもたちの競技スポーツへの関心を高めるとともに競技力の向上を図るため、小中学校の一貫した指導を進めます。 ②体育協会と連携し、京丹後市総合体育大会の参加者の拡大及び競技力の向上に向けて大会の実施方法等について検討を進めます。 ③市民の競技スポーツへの関心を高めるため、トップアスリートによる指導機会の拡充に努めるとともに、ホストタウン相手国のオリンピアンを含む体表選手など、トップアスリートの競技を観戦する機会の提供に努めます。 ④青少年のスポーツ活動における指導者を育成するため、研修機会の充実を図るとともに、ジュニアアスリートの育成・支援の方法について検討します。
5．社会体育施設等の整備充実	①社会体育施設機能の維持・改善のため、老朽化が著しい社会体育施設の改修・修繕等を進めます。 ②社会体育施設の利用実態を把握して利用率の向上を図るとともに、利用率の向上が見込めない施設や老朽化した施設は廃止するなど、全体のバランスを考慮した施設の配置を進めます。 ③あらゆるスポーツの基礎となる陸上の競技力向上及びスポーツ交流人口の拡大を図るため、峰山途中ヶ丘公園陸上競技場の第3種公認陸上競技場としての整備を推進します。
6．スポーツ観光のまちづくり	①自然豊かな地域とスポーツ資源を活用したスポーツイベントの開催、ジオパークの魅力を活用したアクティビティの場や機会を提供することで、より多くの方々が気軽にスポーツができる環境づくりにつなげ、多面的なスポーツ施策の展開を図ります。 ②スポーツを支えるスポーツボランティアの確保に向けた取組みを推進します。 ③2020年東京オリンピック・パラリンピックに向け、外国人アスリートなど、国際社会との交流を進める「ホストタウン」の取組みと、「ワールドマスターズゲームズ2021関西」の開催を通じ、文化交流や地域の活性化を図ります。

【参考】施策に関連するその他の計画

計画名称	計画概要	策定年月	計画期間	備考
第2次京丹後市総合計画	市の目指す基本理念、目標、将来像などを示した「基本構想」と、その構想を実現するための各種施策を総合的、計画的に体系化した「基本計画」	平成27年3月	平成27年度～令和6年度	
京丹後市スポーツ推進計画	年齢や性別、障害等を問わず、広く市民がその適正やライフステージにに応じてスポーツに参画できるよう、中長期的な展望に立った「京丹後市スポーツ推進計画」を策定するもの	平成26年3月	平成26年度～平成29年度	第2次京丹後市スポーツ推進計画（平成30年度～令和9年度）
京丹後市学校教育改革構想	中学校卒業時に期待される学力を全ての生徒が確実に身に付けることができるようにしていくため、保育所・幼稚園、小学校、中学校の10年間を見据え、より系統的で一貫性のある教育を実践するための構想を策定	平成24年11月	計画期間の定めなし	

2. 主な取組と構成事務事業一覧

PLAN　DO　※各事業の成果・課題については、別紙決算附属資料参照　CHECK　ACT

1. 健康な体づくり

主な取り組み ↓	事務事業名称・事業内容（実績）	担当課	決算額（単位：千円） R3決算額	R4決算額	R5予算額	事務の改善 評価を踏まえた今後の方向性
① 子どもの基本的な生活習慣の確立のため、学校園が連携し、発達段階に応じた系統的な指導を行うとともに、その大切さについて家庭への啓発に努めます。						
② 喫煙・薬物乱用などの防止、各種感染症や生活習慣病の予防等に関する指導、性に関する指導について、子どもの発達段階に応じた系統的な指導を行います。						
③ 児童生徒の体力・運動能力の実態や課題を的確に把握・分析し、小中学校の教育活動全体を通じて一貫した体育指導を進めます。						
④ 学校園、家庭及び地域が連携して子どもの運動・スポーツ環境の充実を図るため、学校体育施設の開放や学校支援ボランティア等を活用し、子どもの体力・運動能力の向上につながる取組みを進めます。						

1. 健康な体づくり

主な取り組み ↓	事務事業名称・事業内容（実績）	担当課	決算額（単位：千円） R3決算額	R4決算額	R5予算額	事務の改善 評価を踏まえた今後の方向性
1	保幼小中一貫教育推進事業《再掲》 「京丹後市の学校教育改革構想」に基づき、保幼小中一貫教育の推進に向け、協議会及び専門部会で調査研究を行う。 また、研修等を実施し、指導の一貫性を通じて子どもたちの確かな学力、豊かな心を育成するとともに、「丹後学」の充実を図る。	学校教育課	－	－	－	現状維持

2. 食育の推進

主な取り組み ↓	事務事業名称・事業内容（実績）	担当課	決算額（単位：千円） R3決算額	R4決算額	R5予算額	事務の改善 評価を踏まえた今後の方向性
① 幼児、児童生徒が食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができるよう、給食を生きた教材として活用するとともに、横断的な食育指導の充実を図ります。						
② 地域の伝統的な食文化への理解を深め、郷土に関心を寄せる心を育むため、給食の献立に地元食材や郷土食を積極的に取り入れます。						
③ 体験学習や調理実習等の活動を通じて、「食」への感謝の気持ちを育むため、家庭や地域、地元生産者等と連携した食育の取組みを一層推進します。						

3. 地域スポーツ活動の推進

主な取り組み ↓	事務事業名称・事業内容（実績）	担当課	決算額（単位：千円） R3決算額	R4決算額	R5予算額	事務の改善 評価を踏まえた今後の方向性
① スポーツ推進委員をはじめ公民館、PTA等と連携し、各種ニュースポーツ教室等の実施や各種スポーツ行事への協力等、スポーツの普及を図ります。						
② 市民の多様なスポーツニーズに対応した活動を充実するため、体育協会等の活動及び組織強化を支援します。						
③ 市民の健康づくりとして、年齢や体力、目的に応じた日常的なスポーツ活動を促進するため、市民総参加型スポーツイベント「京丹後チャレンジデー」を開催するなど、効果的なスポーツ情報と機会の提供を進めます。						
④ 障害のある人や配慮が必要な様々な人が、障害の種類や程度に応じて、身近な地域で皆と一緒になって楽しめるニュースポーツの普及推進に努めます。						
2	ｽﾎﾟｰﾂ推進委員活動事業 市民にスポーツに関する指導を行うスポーツ推進委員を委嘱し、住民の求めに応じた、身近な場でのスポーツの機会を提供することにより、市民が気軽に親しめるスポーツ活動を推進する。	生涯学習課	2,697	3,133	3,566	現状維持
3	保健体育総務一般経費 社会体育事業を円滑に実施するための事務経費のほか、スポーツ基本法に基づき設置したスポーツ推進審議会を運営し、市民の意見を反映したスポーツ環境の整備及びスポーツ活動の推進を図る。	生涯学習課	2,536	3,268	3,148	現状維持
4	地域ｽﾎﾟｰﾂ推進事業 ライフステージに応じた各種スポーツ大会を実施することで、市民の生きがいの実感や健康づくりを促進するとともに、スポーツを通した交流機会を確保しスポーツ人口の拡大を図る。	生涯学習課	2,904	6,629	7,919	現状維持

4. 競技力の向上

主な取り組み ↓	事務事業名称・事業内容（実績）	担当課	決算額（単位：千円） R3決算額	R4決算額	R5予算額	事務の改善 評価を踏まえた今後の方向性
① 学校体育団体と連携し、子どもたちの競技スポーツへの関心を高めるとともに競技力の向上を図るため、小中学校の一貫した指導を進めます。						
② 体育協会と連携し、京丹後市総合体育大会の参加者の拡大及び競技力の向上に向けて大会の実施方法等について検討を進めます。						
③ 市民の競技スポーツへの関心を高めるため、トップアスリートによる指導機会の拡充に努めるとともに、ホストタウン相手国のオリンピアンを含む体表選手など、トップアスリートの競技を観戦する機会の提供に努めます。						
④ 青少年のスポーツ活動における指導者を育成するため、研修機会の充実を図るとともに、ジュニアアスリートの育成・支援の方法について検討します。						
5	社会体育団体育成事業 スポーツ団体による主体的な活動を支援し、市民へのスポーツの普及と振興を図るとともに、スポーツによる青少年の健全育成と体力の向上を図る。	生涯学習課	19,309	19,297	19,644	現状維持

5. 社会体育施設等の整備充実

主な取り組み ↓	事務事業名称・事業内容（実績）	担当課	決算額（単位：千円） R3決算額	R4決算額	R5予算額	事務の改善 評価を踏まえた今後の方向性
① 社会体育施設機能の維持・改善のため、老朽化が著しい社会体育施設の改修・修繕等を進めます。						
② 社会体育施設の利用実態を把握して利用率の向上を図るとともに、利用率の向上が見込めない施設や老朽化した施設は廃止するなど、全体のバランスを考慮した施設の配置を進めます。						
③ あらゆるスポーツの基礎となる陸上の競技力向上及びスポーツ交流人口の拡大を図るため、峰山途中ヶ丘公園陸上競技場の第3種公認陸上競技場としての整備を推進します。						

5. 社会体育施設等の整備充実		決算額（単位：千円）			事務の改善
主な取り組み ↓ 事務事業名称・事業内容（実績）	担当課	R3決算額	R4決算額	R5予算額	評価を踏まえた今後の方向性
6 体育施設管理運営事業 市民の身近なスポーツ活動の拠点施設として体育施設を管理することにより、地域スポーツの振興とスポーツ競技力の向上を図る。	生涯学習課	67,774	182,249	56,166	改善・効率化
7 社会体育用学校開放施設管理運営事業 地域住民にとって身近で利用しやすい学校体育施設を開放及び維持管理することにより、スポーツ及びレクリエーションの振興を図り、もって生活文化の向上に資する。	生涯学習課	1,624	2,725	1,684	現状維持
8 久美浜湾ｶﾇｰｾﾝﾀｰ管理運営事業 豊かな自然の中で、カヌーを通して市民のスポーツ及びレクリエーションの振興を図り、心身の健康づくりに資するとともに、本市のスポーツ活動の拠点の一つとして地域の活性化に資するため、カヌーセンターの管理運営を行う。	生涯学習課	2,822	5,116	3,991	現状維持
9 都市公園等維持整備事業 都市公園を適正に維持管理し、市民が快適で安全・安心に利用できるようにする。	生涯学習課	－	48,498	81,966	現状維持

6. スポーツ観光のまちづくり		決算額（単位：千円）			事務の改善
主な取り組み ↓ 事務事業名称・事業内容（実績）	担当課	R3決算額	R4決算額	R5予算額	評価を踏まえた今後の方向性
① 自然豊かな地域とスポーツ資源を活用したスポーツイベントの開催、ジオパークの魅力を活用したアクティビティの場や機会を提供することで、より多くの方々が気軽にスポーツができる環境づくりにつなげ、多面的なスポーツ施策の展開を図ります。 ② スポーツを支えるスポーツボランティアの確保に向けた取組みを推進します。 ③ 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向け、外国人アスリートなど、国際社会との交流を進める「ホストタウン」の取組みと、「ワールドマスターズゲームズ2021関西」の開催を通じ、文化交流や地域の活性化を図ります。					
10 ｽﾎﾟｰﾂｲﾍﾞﾝﾄ推進事業 観光分野と連携し、各種スポーツイベントの開催を支援することで、スポーツを通じた本市の魅力を発信し、交流人口の増加を図る。	生涯学習課	2,746	5,784	5,490	現状維持
11 ｵﾘﾝﾋﾟｯｸ・ﾊﾟﾗﾘﾝﾋﾟｯｸﾎｽﾄﾀｳﾝ推進事業 東京2020オリンピック・パラリンピックホストタウン事業の実施により、スポーツツーリズムの推進、インバウンドの増加及びスポーツによる地域の活性化を図る。	生涯学習課	23,191	－	－	終了・廃止
12 ﾜｰﾙﾄﾞﾏｽﾀｰｽﾞｹﾞｰﾑｽﾞ関西推進事業 ワールドマスターズゲームズ関西（WMG）の取組を通じて、本市の滞在型スポーツ観光の推進、障害者スポーツの基盤づくり及び地域の活性化を図る。	生涯学習課	1,698	1,749	2,516	現状維持
13 東京2020ｵﾘﾝﾋﾟｯｸ聖火ﾘﾚｰ事業 東京2020オリンピック聖火リレーを実施することにより、大会の機運醸成、ホストタウン事業などの成功に資するとともに、スポーツ振興、地域活性化などスポーツによるまちづくりを推進する。	生涯学習課	917	－	－	終了・廃止
	計	128,218	278,448	186,090	

3. 教育振興計画で掲げている主な目標指標

基本的方針	子どもたちのスポーツに親しむ習慣の確立や体力づくりに取り組み、たくましく健やかな身体を育みます。また、子どもから高齢者まで、だれもが豊かで充実した生活を送ることができるよう、市民が生涯にわたってスポーツに取り組むことのできる環境づくりを進めます。 食育は、生きるうえでの基本であり、知育、徳育及び体育の基礎となるものであることから、子どもたちが、自然の恩恵や「食」に関わる人々への感謝、理解を深めるとともに「食」に関する適切な判断力を身に付けることを目指します。

主な目標指標	目標指標	単位	計画作成時	年度	実績値（現状）	年度	目標値	年度
	朝食を毎日食べる児童の割合＜小学校＞	%	97.8 「全国学力・学習状況調査」児童質問紙	H25	96.0	R4	100	R6
	朝食を毎日食べる生徒の割合＜中学校＞	%	91.1 「全国学力・学習状況調査」生徒質問紙	H25	93.9	R4	95%以上	R6
	平日、午前7時より前に起きる児童の割合＜小学校＞	%	88.4 「全国学力・学習状況調査」児童質問紙	H25	全国学力・学習状況調査及び京都府学力テストの児童生徒質問項目から外れたためデータなし	R4	100	R6
	平日、午前7時より前に起きる生徒の割合＜中学校＞	%	77.2 「全国学力・学習状況調査」生徒質問紙	H25	全国学力・学習状況調査及び京都府学力テストの児童生徒質問項目から外れたためデータなし	R4	95%以上	R6

	目標指標	単位	計画作成時	年度	実績値（現状）	年度	目標値	年度
主な目標指標	平日、午後11時より前に寝る児童生徒の割合＜小学校＞	%	91.6 「全国学力・学習状況調査」児童質問紙	H25	全国学力・学習状況調査及び京都府学力テストの児童生徒質問項目から外れたためデータなし	R4	100	R6
	平日、午後11時より前に寝る児童生徒の割合＜中学校＞	%	45.0 「全国学力・学習状況調査」生徒質問紙	H25	全国学力・学習状況調査及び京都府学力テストの児童生徒質問項目から外れたためデータなし	R4	90%以上	R6
	小学生(5年生)の体力テスト全国平均以上	種目	8種目中7種目	H25	8種目中5種目	R4	全種目	R6
	中学生(2年生)の体力テスト全国平均以上	種目	8種目中4種目	H25	8種目中4種目	R4	全種目	R6
	成人の週1回以上のスポーツ実施率	%	21.6 市民アンケート調査結果	H24	49.7	R4	65.0 (国の目標)	R6
	京都府民総合体育大会入賞競技数	競技	6 京都府民総合体育大会結果	H25	6	R4	10	R6
	公共スポーツ施設の利用回数	回	11,253 公共施設利用状況調査結果	H24	15,045	R4	14,000	R6
	スポーツイベント参加者数	人	－	R1	8,164	R4	18,600	R6

4. 施策の進捗状況の評価と今後の課題[基本的方針の達成に向け、施策がどの程度進捗しているか]

CHECK　ACT

進捗状況区分	評価	令和4年度成果と今後の課題
◎　予定以上に進んでいる ○　予定どおり進んでいる ▲　少し遅れている ×　大幅に遅れている	▲	**《朝食を毎日食べる児童生徒の割合》** 朝食を毎日食べる児童生徒の割合は、小学生でやや増加し、中学生は減少した。各校園における家庭向けの啓発及び児童生徒への丁寧な指導により確実に定着してきているが、今後も保護者との連携を更に密にし、児童生徒全員が朝食を毎日食べる取組みを進めていく必要がある。 **《平日、午前７時より前に起きる児童生徒の割合》** 全国学力・学習状況調査及び京都府学力テストの児童生徒質問項目から外れたためデータなし。 **《平日、午後11時より前に寝る児童生徒の割合》** 全国学力・学習状況調査及び京都府学力テストの児童生徒質問項目から外れたためデータなし。 **《小学生（５年生）の体力テスト全国平均以上》** 握力、上体起こし、長座体前屈が全国平均を下回った。男子の握力の数値は全国を上回っている。引き続き、体育科を含む各校の教育活動全体を通した体力づくりの取組等により、意識的に課題のある筋力・柔軟性などの運動能力について克服していく必要がある。 **《中学生（２年生）の体力テスト全国平均以上》** 令和3年度全国を上回っていた男子の50m走、男子の立幅跳び、全国値を下回り、令和3年度全国を下回った男子の握力、女子の上体起こしが全国を上回った。依然として握力、ハンドボール投げ、長座体前屈といった、筋力・柔軟性の分野は全国平均を下回った。引き続き、課題を踏まえ、体育科を含む各校の教育活動全体を通した体力づくりの取組等により、意識的に課題のある運動能力について克服していく必要がある。 **《成人の週１回以上のスポーツ実施率》** 感染対策を講じながら徐々に地域での社会体育の取り組みを進めつつあるが、コロナ前の実施状況には戻っていない。健康増進と体力の向上を図るためスポーツ推進委員が中心となって開催する地域でのニュースポーツ教室やノルディックウォーキング教室等を開催し、参加者を増やす工夫が必要である。 **《京都府民総合体育大会入賞競技数》** 2年間のコロナ禍による練習不足などから出場を見送った競技が複数あった。そのような中でも6競技が入賞を果たした。今後も競技力の向上を目指し、入賞競技数を増やす。また、将来性を有するジュニアアスリートを養成する支援体制を整えることが重要である。

進捗状況区分	評価	令和4年度成果と今後の課題
		《公共スポーツ施設の利用回数》 新型コロナウイルス感染症が市民生活・地域経済に大きく影響を及ぼしたが、市民が負担なくスポーツ活動に勤しみ、市民の元気・活力・健康増進を図ることを目的として、年間を通して市民を対象に施設の無料開放を行った。 年間の利用回数はコロナ前の水準に比べて増加した。 今後は、公共施設の見直し計画による施設の集約化や指定管理者制度の導入等、より市民のニーズに則した施設環境づくりとスポーツ機会の提供が求められる。 《スポーツイベント参加者数》 新型コロナウイルス感染症の影響下、スポーツ観光のまちづくりを推進するため、感染症対策を講じた上で、スポーツイベントを開催することで市内外の参加者が気軽にスポーツができる環境を提供した。 コロナ前の数値には戻っていないが、徐々に参加者数が増えている。今後、各種イベントについて、ウィズコロナでの適切な対策を行い、地域資源を取り入れながら、参加者増と地域活性を図る必要がある。

5. 今後の施策展開の考え方（令和5年～令和6年度での主な取組）

ACT

区分	No.	具 体 的 内 容
施策展開の考え方	1	子どもたちの基本的な生活習慣を確立させるため、学校園が連携し、発達段階に応じた指導を継続するとともに、丹後学を通じた学習や、地産地消・給食指導など、家庭、地域と連携した食育の取組みを更に推進する。
	2	市民のニーズに合ったスポーツの推進や、各地区の事業やPTA活動への協力を行うなど、関係団体等と連携しながら、多くの人がスポーツに親しめる機会を設ける。
	3	京丹後市スポーツ協会の更なる組織強化や事業充実等に向けた支援を継続し、各種スポーツ大会の実施や府民総合体育大会への出場選手の拡大を図り、競技力の向上を目指す。
	4	市内には多くの社会体育施設が点在しているが、地域の大切なコミュニティの場としての役割も大きいため、計画的な施設の修繕を実施する一方、利用が少ない施設の維持管理などについて見直しを行う。
	5	交流人口の増加等、地域活性化を図るため、事業効果の高いスポーツイベントを推進するとともに、WMG関西に向けた準備や取組を推進する。

予算科目			本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率		
款	10 教育費		3,133千円	3,338千円	205千円	93.8 %	部	教育委員会事務局
項	05 保健体育費					(参考)当初予算額	課	生涯学習課
目	02 ｽﾎﾟｰﾂ推進費					3,610千円		
事業	01 ｽﾎﾟｰﾂ推進委員活動事業							

基本計画	27 多様な学びを支援する社会教育の充実
目的	市民にスポーツに関する指導を行うスポーツ推進委員を委嘱し、住民の求めに応じた、身近な場でのスポーツの機会を提供することにより、市民が気軽に親しめるスポーツ活動を推進する。
主な財源	

主要な事務・事業の概要

○スポーツ推進委員報酬（49人分）	2,450千円
○旅費（スポーツ推進委員活動費用弁償、職員旅費）	433千円
○需用費（消耗品費等）	17千円
・機関誌購読料、広報用カラーペーパー	
○役務費（スポーツ安全保険料）	89千円
○委託料（バス運転委託料）	59千円
○使用料及び賃借料（有料道路通行料、駐車場使用料）	20千円
○負担金、補助及び交付金	65千円
・丹後スポーツ推進委員連絡協議会負担金	44千円
・近畿スポーツ推進委員研究協議会参加負担金	21千円

＜活動内容＞
- ノルディック・ウォーキング体験会
  年間18回、延べ236人参加
- ニュースポーツ体験会（ビーチボールバレーほか）
  年間51回、延べ585人参加
- 地区活動やPTA行事、高齢者大学などにおけるスポーツ指導
  （ノルディック・ウォーキング、ニュースポーツ、体力テストほか）
- スポーツ大会への協力（ウルトラマラソン、丹後大学駅伝ほか）

成果・課題

○「ノルディック・ウォーキング」「ニュースポーツ」の普及に努め、幅広い年代の方へスポーツへの参加機会を提供することができた。
○今後も、スポーツへの参加機会の提供だけでなく、地域において、スポーツ指導をする場を設けられるよう、地区公民館等への働きかけ、連携を強化する必要がある。

予算科目			本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率		
款	10 教育費		3,268千円	3,601千円	333千円	90.7 %	部	教育委員会事務局
項	05 保健体育費					(参考)当初予算額	課	生涯学習課
目	01 保健体育総務費					3,783千円		
事業	50 保健体育総務一般経費							

基本計画	27 多様な学びを支援する社会教育の充実
目的	社会体育事業を円滑に実施するための事務経費のほか、スポーツ基本法に基づき設置したスポーツ推進審議会を運営し、市民の意見を反映したスポーツ環境の整備及びスポーツ活動の推進を図る。
主な財源	

主要な事務・事業の概要

○スポーツ推進審議会に関する経費	97千円
・審議会委員報酬：12人、開催回数：2回	84千円
・費用弁償	13千円
○会計年度任用職員任用経費	2,504千円
（スポーツ推進室：事務補助員1人）	
○社会体育に関する事務経費	139千円
・担当者会議、大会誘致活動等旅費	3千円
・全国大会等出場懸垂幕作成経費等	114千円
・駐車場使用料	2千円
・有料道路通行料等	20千円
○第2次京丹後市スポーツ推進計画見直しに関する経費	528千円
アンケート調査（見直し基礎資料）の実施	
調査対象者：市内在住18歳～79歳の2,000人	
調査実施期間：令和4年9月22日～11月11日	
調査方法：郵送配付、郵送回答又はウェブ回答	
有効回答件数：1,020件（51.1%）	
・消耗品費（ラベルシール）	4千円
・印刷製本費（アンケート印刷）	100千円
・役務費（アンケート郵送、回収）	424千円

成果・課題

○「第2次京丹後市スポーツ推進計画」の実施状況の確認や審議を行い、市民の意見を反映したスポーツ環境の整備やスポーツ活動の推進を図ることができた。
○令和5年度の計画見直しの基礎資料とするため、市民アンケート調査を実施し、市民のスポーツに関する意識を把握することができた。

予算科目			本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率		
款	10 教育費		6,629千円	7,496千円	867千円	88.4 %	部	教育委員会事務局
項	05 保健体育費					(参考)当初予算額	課	生涯学習課
目	02 ｽﾎﾟｰﾂ推進費					8,445千円		
事業	02 地域ｽﾎﾟｰﾂ推進事業							

主な財源		
国補	地方創生推進交付金	405千円
繰入金	韓哲・まちづくり夢基金繰入金	238千円
諸収入	スポーツ大会参加料	7千円

基本計画　27 多様な学びを支援する社会教育の充実

目的　ライフステージに応じた各種スポーツ大会を実施することで、市民の生きがいの実感や健康づくりを促進するとともに、スポーツを通した交流機会を確保しスポーツ人口の拡大を図る。

主要な事務・事業の概要

○報償費	34千円
・ドリーム・ベースボールに係る審判員謝金	12千円
・はしうど杯卓球選手権大会審判員謝金	18千円
・入賞記念品（はしうど杯卓球大会）	4千円
○需用費（消耗品費、食糧費）	448千円
○役務費（新聞折込手数料）	59千円
○委託料	1,554千円
・市長杯争奪中学校野球大会開催委託料	100千円
・ジュニアカヌースプリント大会運営委託料	924千円
・京丹後市民陸上記録会運営委託料	300千円
・ドリーム・ベースボール会場設営委託料	205千円
・京都府民総体市町村対抗駅伝バス運行委託料	25千円
○使用料及び賃借料（会場借上料等）	15千円
○負担金、補助金及び交付金	4,519千円
・京都府民総合体育大会派遣費補助金	1,036千円
・京丹後市総合体育大会開催補助金	3,050千円
・京丹後チャレンジデー実行委員会補助金	83千円
・野村克也杯学童野球大会実行委員会補助金	350千円

＜大会等実施状況＞

大会名	開催日	参加者等
ジュニアカヌースプリント春季・秋季大会	5/14(土)・10/29(土)	春季：39人・秋季：37人
京丹後チャレンジデー2022	5/25(水)	参加率57.5%、30,499人 岐阜県羽島市と対戦、勝利
市長杯争奪中学校野球大会	5/28(土)、29(日)	市内5校
北近畿中学生ソフトテニス大会	6/5(日)	4市1町11校　60ペア
京丹後市民陸上記録会	6/26(日)	21チーム、96人
京丹後市総合体育大会	9/4(日)	21種目、1,500人
京都府民総合体育大会	8月～2月	16競技参加、入賞6競技
ドリーム・ベースボール	10/30(日)	野球教室190人、ドリームマッチ1,300人
はしうど杯卓球選手権大会	12/10(土)	2市1町、8校、96人

＜大会中止＞　・弥栄町文化祭駅伝大会

成果・課題　市民が気軽に参加できるスポーツ事業の実施及びスポーツ大会への支援をすることにより、市民の健康・体力づくりやスポーツを通した住民間・地域間の交流機会の提供、地域の活性化に寄与した。

予算科目			本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率		
款	10 教育費		19,297千円	19,297千円	0千円	100.0 %	部	教育委員会事務局
項	05 保健体育費					(参考)当初予算額	課	生涯学習課
目	01 保健体育総務費					19,698千円		
事業	01 社会体育団体育成事業							

主な財源

基本計画　27 多様な学びを支援する社会教育の充実

目的　スポーツ団体による主体的な活動を支援し、市民へのスポーツの普及と振興を図るとともに、スポーツによる青少年の健全育成と体力の向上を図る。

主要な事務・事業の概要

本市のスポーツ振興の中心的な組織である京丹後市体育協会に対し支援を行うとともに、京丹後市青少年スポーツ協会への支援を行った。

○京丹後市体育協会補助金　15,727千円

・加盟団体数：21団体（3,593人）　※令和5年3月末現在

・本部及び支部事業の実施

スポーツ指導者研修会の開催（令和4年7月13日、11月30日）

各町支部、各競技団体の活動支援（年間）

大会協力（丹後大学駅伝）

・広報紙の発行（年3回）

・法人移行にかかる会議等（年間）

※令和4年4月に一般社団法人京丹後市スポーツ協会を設立。令和4年度は法人への移行期間とし、体育協会として運営実施。

○京丹後市青少年スポーツ協会活動補助金　3,570千円

・加盟団体数：64団体（児童生徒数：1,282人、指導者数：349人）

・事業内容：指導者研修会の開催、各加盟団体支援、募集チラシの発行

※子どもスポーツ推進事業（補助金）は新型コロナウイルス感染予防のため中止

＜京丹後市青少年スポーツ協会　種目別加盟団体数＞

種目	団体数	種目	団体数	種目	団体数
野球	10	柔道	1	卓球	1
バレーボール	9	硬式テニス	2	複合(複数種目)	1
バスケットボール	6	ソフトテニス	2	カヌー	1
サッカー	6	バドミントン	3	レスリング	1
空手道	6	少林寺拳法	1	スキー	1
陸上	7	新体操	1	合計	64
剣道	4	体操	1		

成果・課題

○スポーツ団体の組織強化を支援することにより、スポーツ団体が実施する各種教室及び大会などを通して、幅広い年代層へスポーツに親しむ機会を提供することができた。

○京丹後市青少年スポーツ協会の加盟団体への活動助成金の交付や指導者研修会を開催し青少年のスポーツを通じた健全育成を支援した。

○令和5年度から法人へ移行した市スポーツ協会について、組織強化及び発展的な活動・運営となるよう引き続き支援する必要がある。

予算科目			本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率		
款	10 教育費		182,249千円	183,000千円	751千円	99.5 %	部	教育委員会事務局
項	05 保健体育費					(参考)当初予算額	課	生涯学習課
目	03 体育施設費					243,043千円		
事業	01 体育施設管理運営事業							

基本計画	27 多様な学びを支援する社会教育の充実
目的	市民の身近なスポーツ活動の拠点施設として体育施設を管理することにより、地域スポーツの振興とスポーツ競技力の向上を図る。

主な財源		
使用料	社会体育施設使用料	326千円
使用料	公有財産使用料	125千円
諸収入	学校施設光熱水費利用負担金（旧宇川中、旧大宮第三小、旧海部小）	557千円
諸収入	旧橘小火災保険料負担金、旧橘小光熱水費負担金	150千円
市債	社会体育施設整備事業債（合併特例債）	14,300千円
市債	社会体育施設整備事業債（公共施設等適正管理推進事業債）	107,300千円

主要な事務・事業の概要

＜体育施設の維持管理経費＞

○需用費（消耗品費、燃料費、印刷製本費、光熱水費、修繕料）	28,162千円
○役務費（通信運搬費、し尿汲取手数料、火災保険料等）	1,685千円
○委託料（運動公園管理、社会体育館管理、浄化槽維持管理等）	14,075千円
○使用料及び賃借料（土地借上、仮設トイレ借上、AED賃借料）	684千円
○備品購入費（消火器、グラウンドならし他）	262千円
○工事設計監理委託料・工事請負費（4社会体育館LED化）	119,233千円
○工事監理委託料・工事請負費	15,070千円
（久美浜中央運動公園テニスコート照明設備）	
○工事請負費（その他）	3,078千円
・大宮自然運動公園テニスコート人工芝補修工事	271千円
・大宮自然運動公園ナイター照明改修	352千円
・大宮自然運動公園照明配電盤改修	366千円
・網野体育センターテニスコート土砂撤去	241千円
・郷体育館外土間タイル補修	125千円
・弥栄総合運動公園社会体育館カーテン修理	704千円
・黒部体育館防犯灯新設工事	151千円
・久美浜中央運動公園テニスコート人工芝補修工事	505千円
・久美浜中央運動公園3連ブランコ修繕工事	363千円

＜利用状況＞

紅葉ヶ丘運動場（テニスコート）	385 件
大宮自然運動公園（グラウンド、テニスコート）	734 件
大宮社会体育館	848 件
網野グラウンド（グラウンド、屋内ゲートボール場）	717 件
網野体育センター（体育室、柔・剣道室、テニスコート）	1,177 件
丹後社会体育館	343 件
弥栄総合運動公園（体育館、グラウンド、屋根付ゲートボール場等）	1,423 件
久美浜中央運動公園（グラウンド、テニスコート、屋根付ゲートボール場）	1,163 件
その他体育施設（30施設）	8,255 件
合　計（47施設）	15,045 件

成果・課題

○社会体育館4施設の照明LED化により、設備機能の充実と利便性の向上を図ることができた。
○新型コロナウイルス感染予防による施設の利用制限がなくなったことから、昨年度に比べて年間の利用件数は大幅に増加した。
○施設の適切な管理運営を行うことで、市民のスポーツ活動の普及・発展に寄与した。
○施設の効率的・効果的な管理運営を図るため、公共施設見直し計画等に基づき、管理形態の見直し等について検討していく必要がある。

予算科目			本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率		
款	10 教育費		2,725千円	2,777千円	52千円	98.1 %	部	教育委員会事務局
項	05 保健体育費					(参考)当初予算額	課	生涯学習課
目	03 体育施設費					1,799千円		
事業	02 社会体育用学校開放施設管理運営事業							

基本計画	27 多様な学びを支援する社会教育の充実
目的	地域住民にとって身近で利用しやすい学校体育施設を開放及び維持管理することにより、スポーツ及びレクリエーションの振興を図り、もって生活文化の向上に資する。

主な財源		
使用料	小学校施設使用料	15千円
使用料	中学校施設使用料	13千円

主要な事務・事業の概要

＜利用状況＞　（単位：施設・件）

			峰山	大宮	網野	丹後	弥栄	久美浜	合計
小学校	体育館	施設数	4	2	4	2	2	3	17
		利用件数	1,818	674	628	272	266	531	4,189
	ｸﾞﾗｳﾝﾄﾞ	施設数	4	2	4	2	2	3	17
		利用件数	1,037	207	551	116	257	78	2,246
	格技場	施設数			2				2
		利用件数			364				364
中学校	体育館	施設数	2	1	1	2	1	1	8
		利用件数	607	294	264	57	328	123	1,673
	ｸﾞﾗｳﾝﾄﾞ	施設数	1	1	1	1	1	1	6
		利用件数	29	220	77	72	213	67	678
	格技場	施設数		1	1	1		1	4
		利用件数		151	53	253		79	536
合　計					施設数　54		利用件数　9,686		

○需用費（消耗品費、印刷製本費）	278千円
○修繕料	1,427千円
（網野南小サッカーゴール塗装等、久美浜中グラウンド水銀ランプ交換ほか）	
○施設設備撤去手数料（大宮南小グラウンド殺虫器撤去）	61千円
○支障物撤去手数料（大宮中カラスの巣撤去）	66千円
○備品購入費（網野南小、橘小サッカーゴール購入2対）	893千円

成果・課題

○新型コロナウイルス感染予防による施設の利用制限がなくなったことから、昨年度に比べて年間の利用件数は大幅に増加した。施設の計画的な維持管理に努め、市民のスポーツ・レクリエーション活動の場を提供することにより、市民が楽しみ共につくるスポーツのまちづくりに寄与した。
○今後も市民にとって身近で利用しやすい施設として管理運営に努めていく必要がある。

予算科目		本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率		
款	10 教育費	5,116千円	5,220千円	104千円	98.0 %	部	教育委員会事務局
項	05 保健体育費				(参考)当初予算額	課	生涯学習課
目	03 体育施設費				4,984千円		
事業	03 久美浜湾ｶﾇｰｾﾝﾀｰ管理運営事業						

基本計画	27 多様な学びを支援する社会教育の充実
目的	豊かな自然の中で、カヌーを通して市民のスポーツ及びレクリエーションの振興を図り、心身の健康づくりに資するとともに、本市のスポーツ活動の拠点の一つとして地域の活性化に資するため、カヌーセンターの管理運営を行う。
主な財源	使用料　ｶﾇｰｾﾝﾀｰ使用料　641千円

主要な事務・事業の概要

<カヌーセンター管理運営>	2,529千円
○消耗品費（竹ホーキ、ゴミ袋ほか）	7千円
○燃料費、光熱水費	402千円
○修繕料（ドラゴンカヌー艇庫雨どい修繕）	255千円
○火災保険料、計量器検査手数料	50千円
○カヌーセンター管理委託料、消防設備点検委託料	533千円
○回遊ゴミ防護壁設置工事	748千円
○備品購入費	534千円
（収納棚8台、パワーラック1台、カヤックスタンド10セット）	
<浮桟橋の維持管理>	788千円
○浮桟橋渡り板修繕（2回）	84千円
○浮桟橋移動設置業務委託料	308千円
○浮桟橋保守管理業務（2台）	396千円
<カタマラン艇（2艇）の維持管理>	347千円
保有艇の1年毎の点検及び修理	
○燃料費	22千円
○修繕料（バッテリー交換ほか）	43千円
○船舶検査手数料	63千円
○設備保守管理委託料	219千円
<ドラゴンカヌー管理>	1,452千円
○ドラゴンカヌー艇船体修繕（12艇）	1,364千円
○ドラゴンカヌー用パドル購入	88千円

成果・課題

施設の適切な管理運営を行うとともに、全国大会の開催など、カヌーセンターを拠点として本市のスポーツ活動の普及・発展に寄与した。

予算科目		本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率		
款	08 土木費	68,003千円	68,096千円	93千円	99.8 %	部	建設部
項	04 都市計画費				(参考)当初予算額	課	都市計画・建築住宅課
目	03 都市公園費				68,681千円		
事業	01 都市公園等維持整備事業【再掲】						

基本計画	12 快適な都市空間の形成
目的	都市公園を適正に維持管理し、市民が快適で安全・安心に利用できるようにする。
主な財源	市債　都市公園整備事業債（過疎対策債）　5,900千円 市債　過疎地域持続的発展特別事業債（過疎対策債）　45,600千円

主要な事務・事業の概要

○八丁浜シーサイドパーク維持管理経費　19,505千円

【所管：都市計画・建築住宅課】

- 指定管理委託料　15,951千円
- 修繕料（浄化槽修繕2か所、トイレ天窓等修繕）　1,114千円
- 工事請負費（防護柵改修工事、遊具設置工事ほか）　2,396千円
- 火災保険料、自動車損害保険料　44千円

（参考）都市公園利用状況

施設名	利用数
峰山途中ケ丘公園	23,219人
峰山総合公園	25,485人

施設名	利用数
八丁浜シーサイドパーク	41,991人
八丁浜有料駐車場（有料期間：7/16～8/28）	7,349台

○峰山途中ケ丘公園・峰山総合公園維持管理経費　48,498千円

【所管：生涯学習課】

- 指定管理委託料　43,630千円
- 修繕料（峰山総合公園テニスコート支柱修繕工事ほか）　745千円
- 委託料（峰山総合公園トイレ改修工事実施設計業務）　2,842千円
- 工事請負費（峰山途中ケ丘公園スプリング遊具交換工事）　968千円
- 火災保険料、自動車損害保険料　111千円

【所管：都市計画・建築住宅課】

- 用地賃借料（借地面積：1,995㎡）　202千円

成果・課題

○都市公園の維持管理を適正に実施し、利用者の安全で安心な利用に資することができた。
○八丁浜シーサイドパークの浄化槽修繕工事、防護柵改修工事などを実施し、利用者の安全性や利便性を確保した。
○峰山総合公園テニスコート支柱修繕工事、峰山途中ケ丘公園スプリング遊具交換工事などを実施し、利用者の安全性や利便性を確保した。

予算科目		本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率		
款	10 教育費	5,784千円	5,993千円	209千円	96.5 %	部	教育委員会事務局
項	05 保健体育費				(参考)当初予算額	課	生涯学習課
目	02 ｽﾎﾟｰﾂ推進費				6,996千円		
事業	03 ｽﾎﾟｰﾂｲﾍﾞﾝﾄ推進事業						

基本計画	04 滞在型観光・スポーツ観光の促進
目的	観光分野と連携し、各種スポーツイベントの開催を支援することで、スポーツを通じた本市の魅力を発信し、交流人口の増加を図る。
主な財源	寄附金　ふるさと応援寄附金　1,115千円

主要な事務・事業の概要

<スポーツイベントの実施状況等>

イベント名	開催日程	会　場	参加者等	関係予算(負担金・補助金)執行内容	
京丹後市ドラゴンカヌー選手権大会	8/7(日)	久美浜湾	44チーム、540人	実行委員会への補助金	1,700千円
第20回丹後100ｋｍウルトラマラソン	9/18(日)	京丹後市内	2,189人	実行委員会への補助金	171千円
				バス運転委託料	569千円
丹後大学駅伝（第84回関西学生対校駅伝競走大会）	11/19(土)	丹後地域	22チーム、220人	後援会への負担金	600千円
				大会情報発信事業補助金	1,115千円
第56回久美浜湾一周駅伝競走大会	11/23(水・祝)	久美浜湾周辺	192人	大会運営委託料	1,350千円
パラスポーツ講演会	12/2(金)	大宮	50人	講師謝金（2人分）	222千円
合　計			3,191人		5,727千円

○その他経費（消耗品費、燃料費、有料道路通行料）　57千円

成果・課題

○新型コロナウイルス感染対策を講じて各種大会を実施し、参加者（全体で3,191人）のほか、応援者、関係者等含め多くの参加者を得て、地域における経済効果及び市の魅力発信を図ることができた。
○丹後大学駅伝では、ガバメントクラウドファンディング（寄附金）により、インターネット配信（当日）及び地上波でのテレビ放送が実現し、開催地である丹後地域をPRすることができた。

予算科目		本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率		
款	10 教育費	1,749千円	1,863千円	114千円	93.8 %	部	教育委員会事務局
項	05 保健体育費				(参考)当初予算額	課	生涯学習課
目	02 ｽﾎﾟｰﾂ推進費				2,215千円		
事業	05 ﾜｰﾙﾄﾞﾏｽﾀｰｽﾞｹﾞｰﾑｽﾞ関西推進事業						

基本計画	04 滞在型観光・スポーツ観光の促進
目的	ワールドマスターズゲームズ関西（WMG）の取組を通じて、本市の滞在型スポーツ観光の推進、障害者スポーツの基盤づくり及び地域の活性化を図る。
主な財源	諸収入　地方公共団体ｽﾎﾟｰﾂ活動助成金　1,431千円

主要な事務・事業の概要

○WMG関西京丹後市実行委員会運営補助金　39千円
○SUPジャパンオープン補助金　430千円
<SUP2022ジャパンオープン>
・開催日：令和4年4月15日（日）　※14日（土）SUP無料体験会実施
・参加者数：80人　※無料体験会　10人
・会場：久美浜湾カヌー競技場

○全日本カヌーマラソン選手権大会運営補助金　1,260千円
<令和4年度全日本カヌーマラソン選手権大会>
・開催日：令和4年5月20・21・22日（金・土・日）
・参加者数：98人
・会場：久美浜湾カヌー競技場

○旅費、有料道路通行料　20千円

成果・課題

○WMGプレ大会（SUP、カヌーマラソン）を開催し、本大会に向けての競技運営に必要な運営体制等について確認することができ、今後の大会・合宿誘致に向けてノウハウを得られた。
○WMG大会が2027年5月に開催することが決定した。引き続き、大会の知名度の向上と機運醸成に向けた取組を展開していく必要がある。